JobCenter

R12.8

〈Definition Helper機能利用の手引き〉

■Windows 2000, Windows XP, Windows Server 2003, Windows Server 2008 および Excel は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

■UNIX は、The Open Groupが独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

■Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

■SAP, ERP, BI は、SAP AG の商標もしくは登録商標です。

■HP-UX は、米国 Hewlett-Packard 社の商標です。

■AIX は、米国 IBM Corporation の商標です。

■NQSは、NASA Ames Research Center のために Sterling Software 社が開発した Network Queuing System です。

■その他、本書に記載されているソフトウエア製品およびハードウエア製品の名称は、関係各社の登録商標または商標です。

なお、本書内では、®、TM、©の記号は省略しています。

輸出する際の注意事項

本製品(ソフトウエア)は、外国為替令に定める提供を規制される技術に該当いたしますので、日本国外へ持ち出す際には日本国政府の役務取引許可申請等必要な手続きをお取り下さい。許可手続き等にあたり特別な資料等が必要な場合には、お買い上げの販売店またはお近くの当社営業拠点にご相談下さい。

はじめに

本書は、Definition Helperの機能概要等について説明しています。

本書の内容は将来、予告なしに変更する場合があります。あらかじめご了承下さい。

1. 凡例

本書内での凡例を紹介します。

	気をつけて読んでいただきたい内容です。
注	本文中につけた注の説明
備考	本文中の補足説明
__	UNIX版のインストール画面の説明では、__部分(下線部分)はキーボードからの入力を示します。

2. 関連マニュアル

JobCenter に関するマニュアルです。JobCenter メディア内に格納されています。

最新のマニュアルは、JobCenter 製品サイトのダウンロードのページを参照してください。

URL:http://www.nec.co.jp/middle/WebSAM/products/JobCenter/download.html

資料名	概要
JobCenter インストールガイド	JobCenter を新規にインストール、またはバージョンアップする場合の方法について説明しています。
JobCenter クイックスタート編	初めて JobCenter をお使いになる方を対象に、JobCenter の基本的な機能と一通りの操作を説明しています。
JobCenter 基本操作ガイド	JobCenter の基本機能、操作方法について説明しています。
JobCenter 環境構築ガイド	JobCenter を利用するために必要な環境の構築、環境の移行や他製品との連携などの各種設定方法について説明しています。
JobCenter NQS 機能利用の手引き	JobCenter の基盤である NQS の機能を JobCenter から利用す る方法について説明しています。
JobCenter クラスタ機能利用の手引き	クラスタシステムで JobCenter を操作するための連携方法について説明しています。
JobCenter SAP 機能利用の手引き	JobCenter を SAP と連携させるための方法について説明しています。
JobCenter インポート・エクスポート機能利用の手引き	ユーザ環境のバックアップや環境の移行の際に必要な、JobCenter 上のジョブネットワーク定義、スケジュール定義およびカレンダ定義のインポート エクスポート機能について説明しています。
JobCenter 操作・実行ログ機能利用の手引き	JobCenter CL/Win からの操作ログ、ジョブネットワーク実行ログ取得機能および設定方法について説明しています。
JobCenter テンプレートガイド	JobCenter に標準添付されている各種テンプレートの利用方法について説明しています。
JobCenter コマンドリファレンス	GUI と同様にジョブネットワークの投入、実行状況の参照などをコマンドラインから行うために、JobCenter で用意されているコマンドについて説明しています。
JobCenter R12.8 リリースメモ	バージョン固有の情報を記載しています。
JobCenter UCXSingle ジョブ利用ガイド	JobCenter を UCXSingle と連携させるための方法について説明しています。
JobCenter Definition Helper 機能利用の手引き	Excel上でジョブネットワーク、スケジュール、稼働日カレンダ定義を行い、アップロード、ダウンロードを行う方法について説明しています。

3. 改版履歴

版数	変更日付	項目	形式	変更内容
1	2009/12/28	新規作成	-	第1版
2	2011/07/15	修正	-	誤記を複数修正

目次

はじめに iii
1. 凡例 iv
2. 関連マニュアル v
3. 改版履歴 vi
1. 概要 1
1.1. 機能概要 2
1.2. システム構成例 3
1.2.1. 定期的に実施するバッチ定義のメンテナンス 3
1.2.2. バッチ業務の分散開発 3
1.3. 導入の効果 5
1.4. 動作環境 7
1.5. 用語一覧 8
2. インストール・アンインストール 9
2.1. インストール 10
2.1.1. 新規インストール 10
2.1.2. 定義シートの追加 11
2.1.3. Excelのセキュリティレベル設定 11
2.2. アンインストール 12
3. 基本操作 13
3.1. Definition Helperの利用場面 14
3.1.1. サーバ上のジョブネットワークをExcelを使って編集する 14
3.1.2. Excelを使って新しくジョブネットワークを作成する 14
3.1.3. Excelを使ってジョブ定義仕様書を作成する 15
3.2. サーバから定義データをダウンロードする 16
3.3. JPFファイルをExcelに読み込む 18
3.4. ジョブネットワーク定義を編集する 20
3.5. スケジュール定義を編集する 23
3.6. カレンダ定義を編集する 26
3.7. ジョブネットワークフローを確認する 29
3.8. スケジュール・カレンダを確認する 31
3.9. 定義をJPFファイルに変換する 33
3.10. JPFファイルをサーバにアップロードする 35
3.11. ジョブネットワークを新規作成する 36
4. 機能詳細 41
4.1. ジョブネットワークの作成(JNWシート) 42
4.1.1. IDと種別 42
4.1.2. 部品共通設定 43
4.1.3. ジョブネットワーク 44
4.1.4. 単位ジョブ 51
4.1.5. ERPジョブ 57
4.1.6. BIジョブ 61
4.1.7. PCジョブ 63
4.1.8. UCXSingleジョブ 65
4.1.9. サブジョブネットワーク 69
4.1.10. ダイアログ 69
4.1.11. 条件分岐 70
4.1.12. カレンダ分岐 70
4.1.13. 並列分岐 71
4.1.14. OR分岐 71
4.1.15. コンティニュー 71
4.1.16. サブジョブネットワーク待ち合わせ 71
4.1.17. ジョブ待ち合わせ 72
4.1.18. ファイル待ち合わせ 72
4.1.19. 時刻待ち合わせ 74
4.1.20. イベント送信 75

4.1.21. イベント受信 77
4.2. スケジュールの作成(SCHEDシート) 80
4.2.1. IDと種別 80
4.2.2. 基本設定と適用カレンダ 80
4.2.3. ルールの作成 81
4.3. カレンダの作成(CALシート) 85
4.3.1. IDと種別 85
4.3.2. 基本設定 85
4.3.3. ルールの作成 86
4.4. ジョブネットワーク・スケジュール・カレンダシートの共通操作 90
4.5. viewシート 92
4.5.1. flow-viewシート 92
4.5.2. date-viewシート 93
4.6. inputシート 96
4.7. outputシート 98
4.8. アップロード・ダウンロード機能 101
4.8.1. アップロード 101
4.8.2. ダウンロード 103
4.8.3. チェック 105
5. 注意事項・制限事項 107
5.1. 注意事項 108
5.2. 制限事項 109

図目次

1.1. Definition Helper画面 2
1.2. Definition Helperシステム構成例 1 3
1.3. Definition Helperシステム構成例 2 4
1.4. 導入の効果 例1 5
1.5. 導入の効果 例2 5
1.6. 導入の効果 例3 6
3.1. メニュー[ダウンロード] 16
3.2. 定義のダウンロード 16
3.3. 詳細設定 17
3.4. ダウンロード結果 17
3.5. inputシート 18
3.6. 定義ファイルの読み込み 18
3.7. JPFファイル読み込み後の状態 19
3.8. メニュー[ダウンロード] 19
3.9. jnwシート 20
3.10. jnwシートの編集 20
3.11. 部品の初期値代入 21
3.12. 全体チェック 21
3.13. 参照モードへの移行 22
3.14. schedシート 23
3.15. schedシートの編集 23
3.16. 部品の初期値代入 24
3.17. 全体チェック 24
3.18. 参照モードへの移行 25
3.19. calシート 26
3.20. calシートの編集 26
3.21. 部品の初期値代入 27
3.22. 全体チェック 27
3.23. 参照モードへの移行 28
3.24. 参照モードへの移行(「jnw」シート) 29
3.25. flow-viewシート 29
3.26. JNWフローの確認 30
3.27. 参照モードへの移行(「sched」シートの例) 31
3.28. date-viewシート 31
3.29. スケジュール日時の出力例 32
3.30. 参照モードへの移行(図は「jnw」シートの例) 33
3.31. outputシート 33
3.32. 操作の選択例 34
3.33. JPFファイルの出力 34
3.34. メニュー[アップロード] 35
3.35. アップロード結果 35
3.36. サンプルジョブネットワーク 36
3.37. 全体チェック 40
4.1. jnwシート 42
4.2. schedシート 80
4.3. calシート 85
4.4. flow-viewシート 92
4.5. date-viewシート 94
4.6. 更新対象の設定ダイアログ 94
4.7. inputシート 96
4.8. JPFファイルの選択ダイアログ 96
4.9. シートに反映ダイアログ 97
4.10. outputシート 98
4.11. シートから取り込み後の一覧 98
4.12. JPFファイルの作成 100

4.13. CL/Winのアップロード機能 101
4.14. アップロードファイルの選択ダイアログ 101
4.15. 定義のアップロード成功ダイアログ 102
4.16. CL/Winのダウンロード機能 104
4.17. ダウンロードファイルの選択ダイアログ 104
4.18. ジョブネットワークのグループ指定ダイアログ 104
4.19. 定義のダウンロード成功ダイアログ 105
4.20. CL/Winのチェック機能 106
4.21. チェックファイル選択ダイアログ 106
4.22. 定義のチェック成功ダイアログ 106

第1章 概要

本章ではWebSAM JobCenter Definition Helperの概要について説明します。

1.1. 機能概要

WebSAM JobCenter Definition HelperはExcelの機能を活用して効率的にJobCenter定義情報を作成・変更する機能を提供します。従来のJobCenter CL/Winで行っていたジョブネットワーク、スケジュール、稼働日カレンダの各種パラメータ定義作業を使い慣れたExcelで一括して編集することができます。

WebSAM JobCenter Definition Helperの基本機能は以下3つのフェーズに分けられます

■ダウンロード

サーバ上にあるWebSAM JobCenter定義をWebSAM JobCenter Definition Helperで読み込むことができる形式で取得することをダウンロードといいます。ダウンロードすることでJobCenter定義情報をJPF(JobCenter Portable Format)というファイル単位で扱えますので、バックアップや版管理を目的に本機能を利用することも可能です。

■Excelの編集

WebSAM JobCenter Definition Helperは一覧表形式のExcelファイルを使用します。オートフィルターやコピー＆ペースト等のExcel機能を利用することで効率的に定義情報の入力・編集を行うことができます。

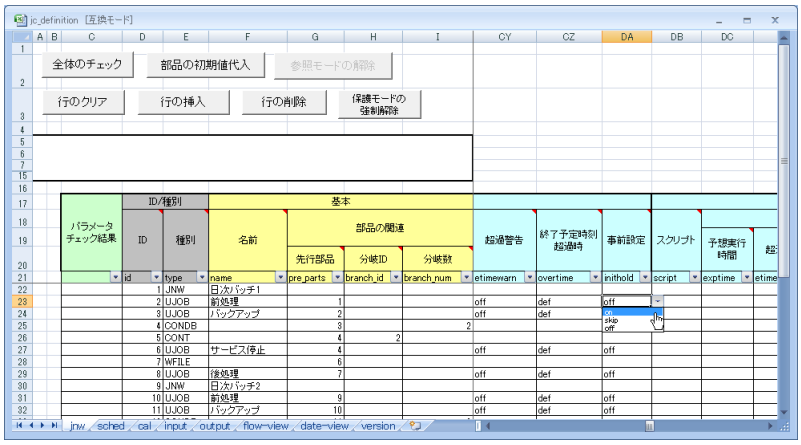


図1.1 Definition Helper画面

■アップロード

WebSAM JobCenter Definition Helperで作成・編集した定義情報をサーバに配置することをアップロードといいます。

1.2. システム構成例

1.2.1. 定期的に実施するバッチ定義のメンテナンス

JobCenter Definition Helperを利用することで、バッチ定義のメンテナンスを以下のような定型的な手順で実施することができます。

1. サーバからメンテナンス対象となるジョブネットワーク、スケジュール、カレンダの定義情報をダウンロードします。

2. ダウンロードした定義情報(JPFファイル)をJobCenter Definition Helperで読み込みます。

3. Excelの機能を活用してジョブネットワークの作成・編集を行います。

4. Excelの機能を活用してスケジュールやカレンダの作成・編集を行います。

5. JobCenter Definition Helperから定義情報をサーバ可読形式(JPFファイル)に変換します。

6. メンテナンスを行ったジョブネットワーク、スケジュール、カレンダの定義情報をサーバへアップロードします。

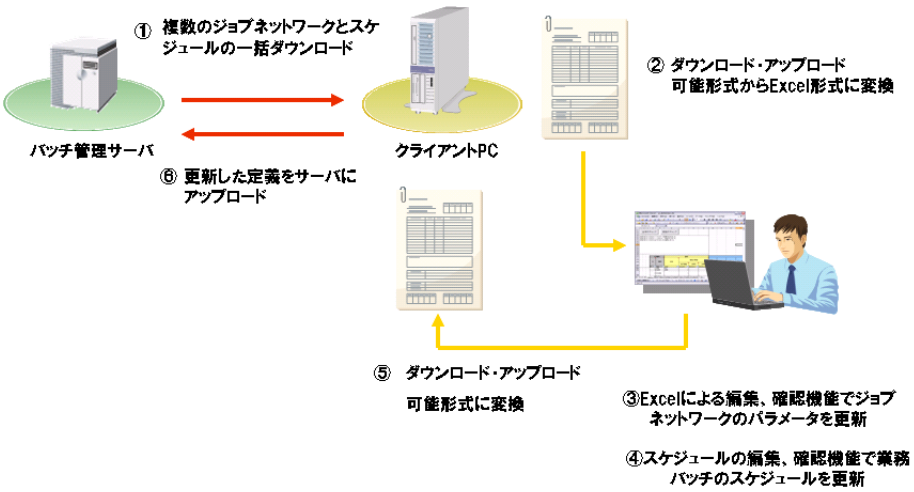


図1.2 Definition Helperシステム構成例 1

1.2.2. バッチ業務の分散開発

JobCenter Definition Helperを利用することでJobCenter CL/Winでサーバに接続することなく、定義を作成・編集することができます。これにより、以下のような分散開発を実施することができます。

1. 各システム開発担当者がJobCenter Definition Helper(Excelファイル)を利用して担当分の業務バッチを開発します。

2. システム開発管理者は、各開発担当者から成果物を収集・確認し、定義情報を結合します。

3. 開発したジョブネットワーク、スケジュール、カレンダの定義情報をサーバへアップロードします。

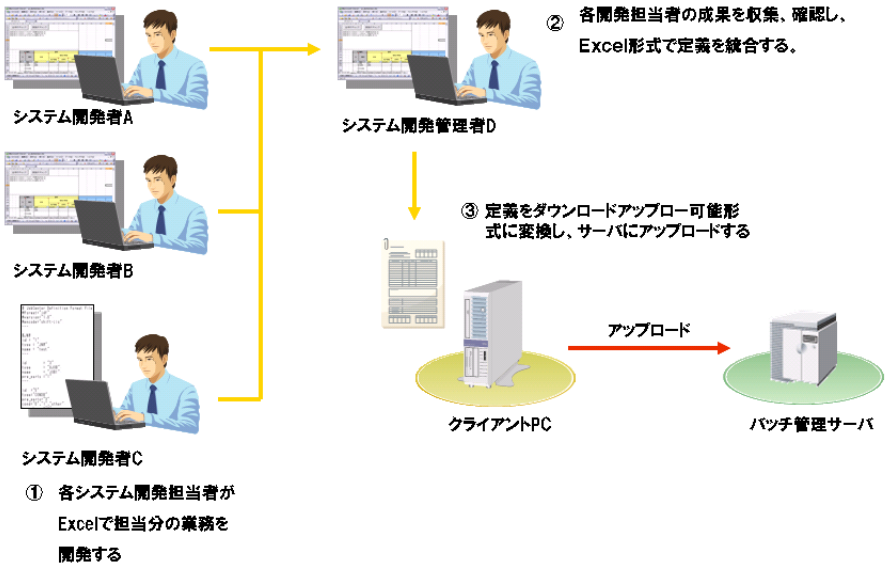


図1.3 Definition Helperシステム構成例 2

1.3. 導入の効果

WebSAM JobCenter Definition Helperは従来JobCenter CL/Winで行っていたジョブネットワーク、スケジュール、稼働日カレンダの各種パラメータ定義作業を使い慣れたExcelで効率的に実施することができます。サーバ上にある定義情報そのまま編集するのではなく、個別のExcelファイルとして一元的に管理・編集できるので、JobCenter定義情報のメンテナンスがより安全でより効率的になります。

■従来のようなJobCenter　CL/Winでサーバ上のJobCenter定義情報を一つずつ編集する手間を省き、使い慣れたExcelシート上で一覧表形式に対して編集作業ができるので、ジョブの効率的な編集を実現することができます。

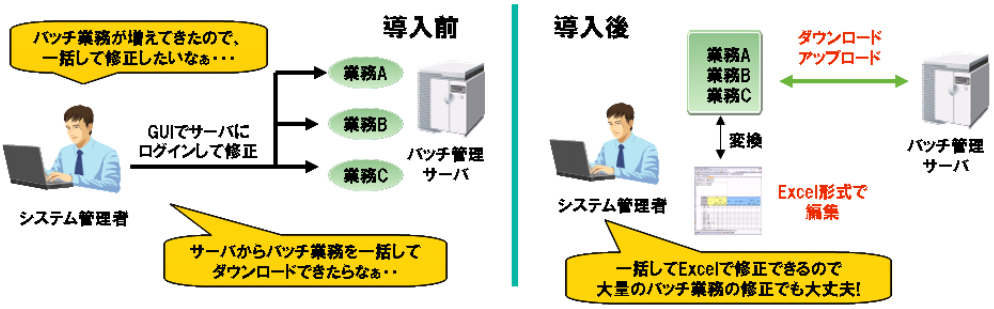


図1.4 導入の効果 例1

■JobCenter Definition HelperならばExcelの便利な機能を利用しながら定義の編集が行えます。同じようなジョブ定義を作成する際には、Excelのコピー＆ペースト機能を利用することで、容易に作成することができます。一覧表形式でパラメータを設定できますので、定義の一括修正や修正箇所の把握が容易になり、効率的な業務バッチ作成を支援します。

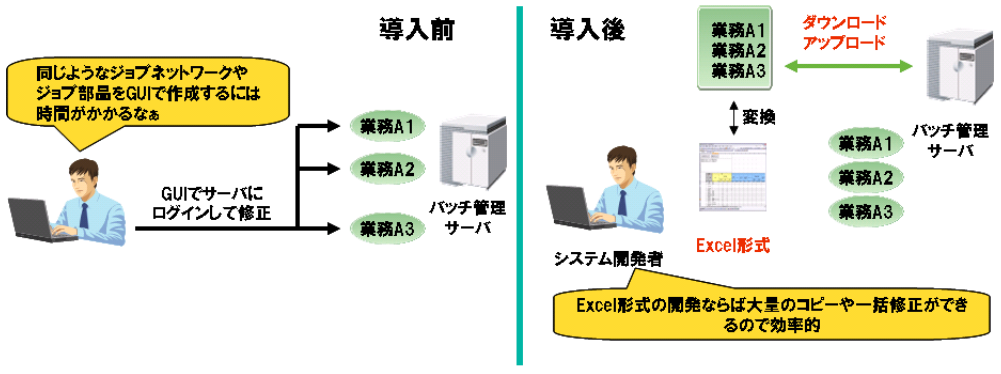


図1.5 導入の効果 例2

■JobCenter Definition Helperはサーバー上のJobCenter定義情報をExcelファイルに保存できますので、定義のバックアップや版管理として利用することもできます。

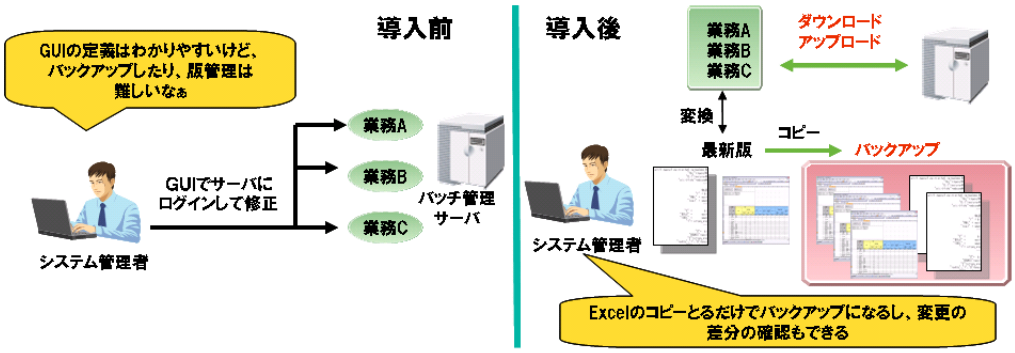

導入前
GUIの定義はわかりやすいけど、
バックアップしたり、版管理は
難しいなぁ
GUIでサーバに
ログインして修正
業務A
業務B
業務C
バッチ管理
サーバ
システム管理者
導入後
業務A
業務B
業務C
ダウンロード
アップロード
変換
最新版
コピー
バックアップ
システム管理者
Excelのコピーとるだけでバックアップになるし、変更の
差分の確認もできる

図1.6 導入の効果 例3

1.4. 動作環境

JobCenter Definition Helperの動作環境および対応OSにつきましては、リリースメモの「動作環境」を参照してください。

■対応OS

Windows XP, Windows Vista, Windows 7

■Excelバージョン

Excel2003(Office2003), Excel2007(Office2007)

1.5. 用語一覧

Definition Helperで使用する用語について一覧を記載します。

用語	説明
Jobcenter Definition Helper	Excelで大量のジョブネットワークやスケジュールを一括して定義し、それをサーバに一括でアップロード・ダウンロードできるようにする機能
JDF(JobCenter Definition Format)	Jobcenter Definition HelperでJobCenter定義を扱うための形式
JPF(JobCenter Portable Format)	Jobcenter Definition Helperで編集した定義情報をJobCenter MGに対してアップロード・ダウンロードするための形式
定義のダウンロード	JobCenter MGから定義情報をJPF形式で取得する機能
定義のアップロード	JobCenter MGへJPF形式の定義情報を格納する機能
チェック(定義のアップロード)	JPF形式の定義情報が正当であるか確認する機能
jnwシート	JobCenter Definition Helperのジョブネットワーク定義を行うExcelシート
schedシート	JobCenter Definition Helperのスケジュール定義を行うExcelシート
calシート	JobCenter Definition Helperのカレンダ定義を行うExcelシート
inputシート	JobCenter Definition Helperで定義情報の読み込み処理を行うためのExcelシート
outputシート	JobCenter Definition Helperで定義情報の出力処理を行うためのExcelシート
flow-viewシート	JobCenter Definition Helperでジョブネットワーク定義情報のフロー確認を行うためのExcelシート
date-viewシート	JobCenter Definition Helperでスケジュール・カレンダ定義情報の稼働日確認を行うためのExcelシート

第2章 インストール・アンインストール

本章ではJobCenter Definition Helperのインストール・アンインストール手順について説明します。

2.1. インストール

JobCenter Definition Helperのインストール方法について説明します。

2.1.1. 新規インストール

1. JobCenterのメディアから、NECJCpkg-jdh.zipをローカルディスク上の任意の場所にコピーします。

2. NECJCpkg-jdh.zipを解凍してください。解凍先・フォルダ名は任意に決定することができます。なお、このフォルダ名称・配置先は後で随時変更可能です。

   解凍したフォルダは以下のファイル構成となっています。

```
└──NECJCpkg-jdh
    |   jc_definition.xls
    |   jc_definition_sample.xls
    |
    ├──bin
    |   |   jccompress.dll
    |   |   jcuncompress.dll
    |   |   jdh_conv.exe
    |   |   jdh_conv_internal.exe
    |   |
    |   ├──Microsoft.VC90.CRT
    |   |       Microsoft.VC90.CRT.manifest
    |   |       msvcm90.dll
    |   |       msvcp90.dll
    |   |       msvcr90.dll
    |   |
    |   └──Microsoft.VC90.MFC
    |           mfc90.dll
    |           mfc90u.dll
    |           mfcm90.dll
    |           mfcm90u.dll
    |           Microsoft.VC90.MFC.manifest
    |
    ├──doc
    |   |   ReadMe_for_sample.txt
    |   |
    |   └──license
    |           LICENSE
    |
    └──sample_jpf
            sample.jpf
```

以上でJobCenter Definition Helperのインストール作業は完了です。

JobCenter Definition Helperはインストール時のファイル・フォルダ構成のまま使用してください。また、ファイル・フォルダ名を変更できるのはインストールフォルダと本体ファイル「jc_definition.xls」のみとなります。dllファイルやexeファイルの格納パス名称が変更されていると正常に動作できなくなります。

2.1.2. 定義シートの追加

JobCenter Definition Helperを複数のファイルで利用したい場合には「jc_definition.xls」をマスターテンプレートとして利用してください。「jc_definition.xls」をコピーし、ファイル名を変更した上で同フォルダに格納することにより、複数ファイルで管理することができます。なお、JobCenter Definition HelperのExcelファイルにはどのような名称でも付けることができます。

2.1.3. Excelのセキュリティレベル設定

■Excel 2003（Office 2003）のセキュリティレベル設定

Excel 2003（Office 2003）で使用する場合，Excelのセキュリティレベルが「高」に設定されていると，JobCenter Definition Helperの一部機能を使用することができません。セキュリティレベルを「中」に設定している場合，JobCenter Definition Helperを開くと警告ダイアログボックスが表示されます。その際には，［マクロを有効にする］を選択してください。

■Excel 2007（Office 2007）のセキュリティレベル設定

Excel 2007（Office 2007）でJobCenter Definition Helperを使用する場合は以下のどちらかの方法によりExcelのマクロ機能を有効にしてください。

・［セキュリティセンター］-［マクロの設定］から設定する

Excel 2007では，デフォルトで［セキュリティセンター］-［マクロの設定］に「警告を表示してすべてのマクロを無効にする」が設定されているため、JobCenter Definition Helperを実行した際に「セキュリティの警告 マクロが無効にされました」というメッセージが表示されます。この場合、「不明なコンテンツから保護する（推奨）」が設定されている状態となりますので、JobCenter Definition Helperの一部機能を利用できません。［オプション］ボタンから［Microsoft Office セキュリティ オプション］ダイアログボックスを表示させ，「このコンテンツを有効にする」を選択してExcelマクロ機能を有効化してください。

・［セキュリティセンター］-［信頼できる場所］から設定する

JobCenter Definition Helperのインストールフォルダを［セキュリティセンター］-［信頼できる場所］に追加することでマクロ機能を有効にします。［セキュリティセンター］-［セキュリティ センターの設定］-[Microsoft Officeの信頼できる場所]にJobCenter Definition Helperインストールフォルダパスを追加してください。

2.2. アンインストール

JobCenter Definition Helperのアンインストール方法について説明します。

1. JobCenetr Definition Helperを格納したフォルダを削除してください。

   Definition Helperはレジストリを使用しませんので、作業フォルダを削除することで関連ファイルすべてをシステムから削除することができます。

以上でJobCenter Definition Helperのアンインストール作業は完了です。

第3章 基本操作

この章では、Definition Helperの基本的な使い方の説明を行います。

Definition Helperの利用場面や、それらの場面ごとの操作方法についての説明を行います。

3.1. Definition Helperの利用場面

この節では、Definition Helperの機能の利用例を説明します。それぞれの利用例ごとにどのような手順で実現できるかを説明します。

3.1.1. サーバ上のジョブネットワークをExcelを使って編集する

Definition Helperでは、サーバ上に存在するジョブネットワークやスケジュール、カレンダ定義をExcelを使って編集することができます。

Excelの検索機能や置換機能を利用することができるので、ジョブネットワーク内の部品のパラメータを一括して置換するといったことが実現できます。

サーバ上のジョブネットワークをExcelを使って編集するには、以下のような手順で作業を行います。

1. サーバから定義データをダウンロードします。
2. ダウンロードしたJPFファイルをEXCELに読み込みます。
3. ジョブネットワークの編集を行います。

   ここではジョブネットワークの編集を例にしていますが、スケジュールを編集する場合は「スケジュール定義を編集する」、カレンダを編集する場合は「カレンダ定義を編集する」を参照してください。
4. Excelを使って作成したジョブネットワークフローが正しいかどうか確認します。

   ここではジョブネットワークフローの確認を例にしていますが、スケジュールの実行時刻や、カレンダの稼働日の確認をする場合は「スケジュール・カレンダを確認する」を参照してください。
5. 作成した定義をサーバにアップロードするためにJPFに変換します。
6. JPFファイルをサーバにアップロードします。

3.1.2. Excelを使って新しくジョブネットワークを作成する

JobCenter CL/Winを用いてジョブネットワークやスケジュール、カレンダ定義を作成することもできますが、Definition Helperを用いて各種定義を作成することもできます。

Excelの機能を用いることにより、一度に同じパラメータの部品を大量に作成するといったことが実現できます。

Excelを使ってジョブネットワークを作成するには、以下のような手順で作業を行います。

1. インストールディレクトリにある「jc_definition.xls」ファイルをコピーして、同じディレクトリに「new_jnw.xls」等の別名で保存します。
2. ジョブネットワークの作成を行います。

   ここではジョブネットワークの新規作成を例にしていますが、スケジュールを新規に作成する場合は「スケジュール定義を編集する」、カレンダを新規に作成する場合は「カレンダ定義を編集する」を参照してください。
3. 作成したジョブネットワークフローの確認を行います。

   ここではジョブネットワークフローの確認を例にしていますが、スケジュールの実行時刻や、カレンダの稼働日の確認をする場合は「スケジュール・カレンダを確認する」を参照してください。

4. 作成した定義をJPFファイルに変換します。

5. JPFファイルをサーバにアップロードします。

3.1.3. Excelを使ってジョブ定義仕様書を作成する

Definition HelperのExcelファイルの「jnw」シートは、ジョブネットワークやその中の部品のパラメーター覧とみなすこともできます。

そのため、このシートを印刷したり、Excelファイルを別名で保存したりすることで、ジョブ定義仕様書の作成や管理を行うこともできます。

3.2. サーバから定義データをダウンロードする

Definition　Helperを使って定義を編集するため、サーバ上のジョブネットワーク、スケジュール、カレンダをローカルマシンにダウンロードします。ダウンロードしたファイルはJPFという形式で保存されます。

1. CL/Winから対象のJobCenterサーバに接続し、メニューバーの[ファイル(F)]-[Definition Helper]-[ダウンロード(D)]から「定義のダウンロード」画面を開きます。

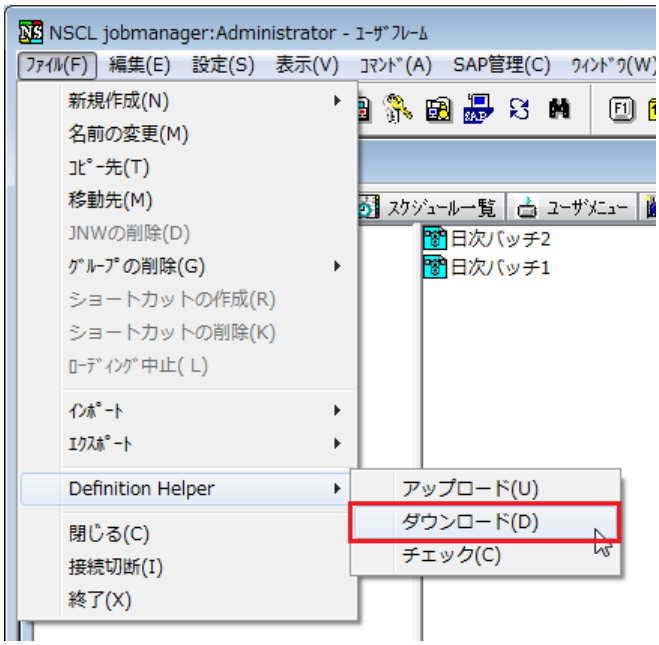


図3.1 メニュー[ダウンロード]

2. 「定義のダウンロード」画面からダウンロードしたい定義（ジョブネットワーク／スケジュール／カレンダ）を選択します。

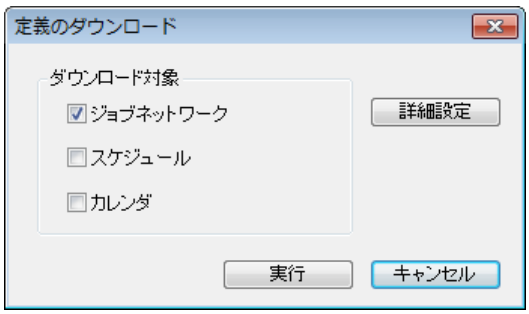


図3.2 定義のダウンロード

カレンダはJobCenter管理者ユーザしかダウンロードできません。

3. ジョブネットワークをダウンロード対象に選択した場合、「詳細設定」ボタンをクリックすると、グループを指定してダウンロードすることができます。

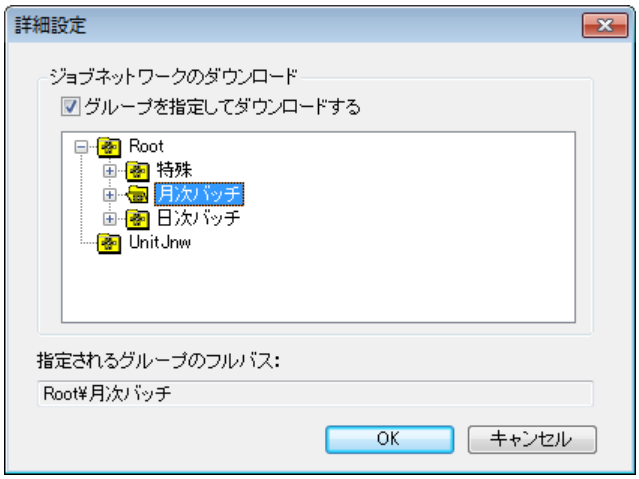


図3.3 詳細設定

4. 「実行」ボタンを押してデータの保存先を指定します。ダウンロードが開始され、最後に処理結果が表示されます。

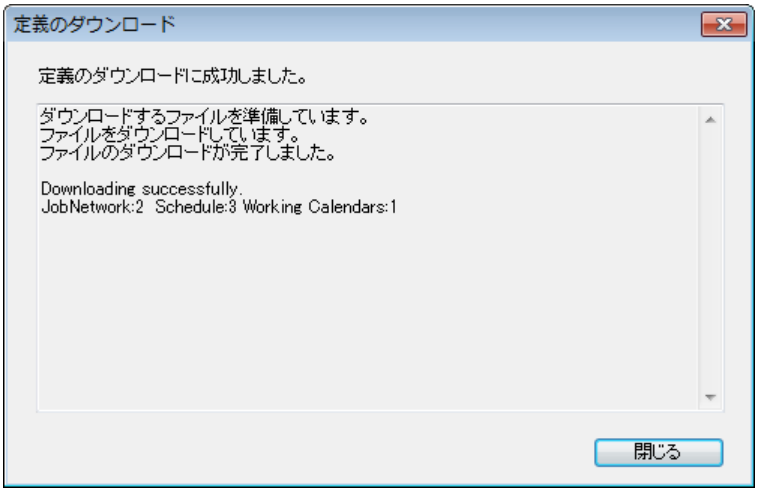


図3.4 ダウンロード結果

3.3. JPFファイルをExcelに読み込む

定義を編集するために、ダウンロードしたJPFファイルをExcelで読み込み、各シートに表示します。

1. ファイル「jc_definition.xls」を開き、「input」シートを表示します。

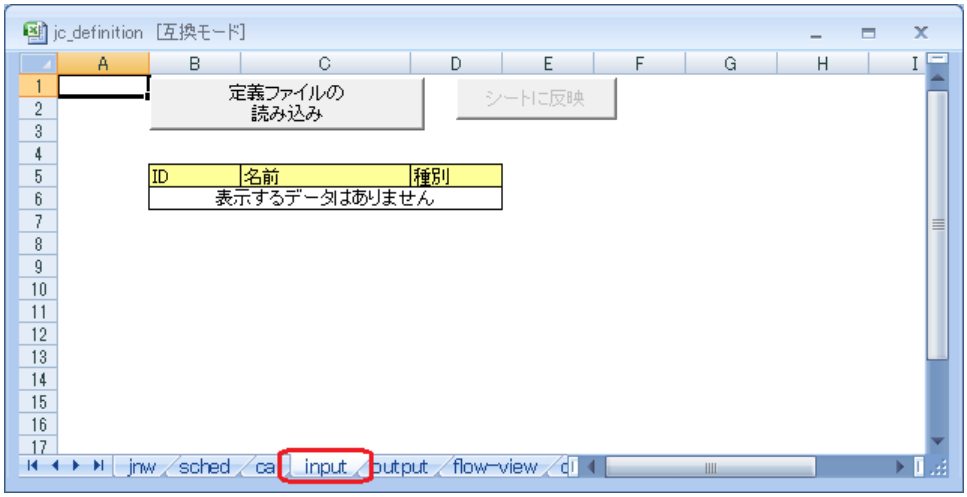


図3.5 inputシート

2. 「定義ファイルの読み込み」ボタンをクリックすると、「ファイルの選択」画面が表示されますので、ダウンロードしたJPFファイルを選択します。

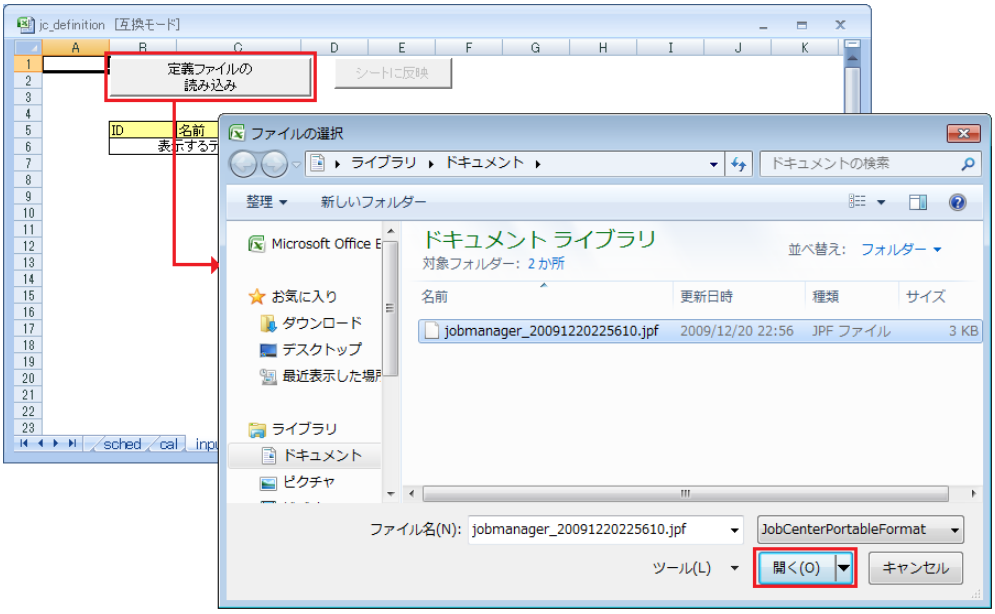


図3.6 定義ファイルの読み込み

3. ファイルの読み込みに成功すると、読み込んだ定義情報が表示されます。

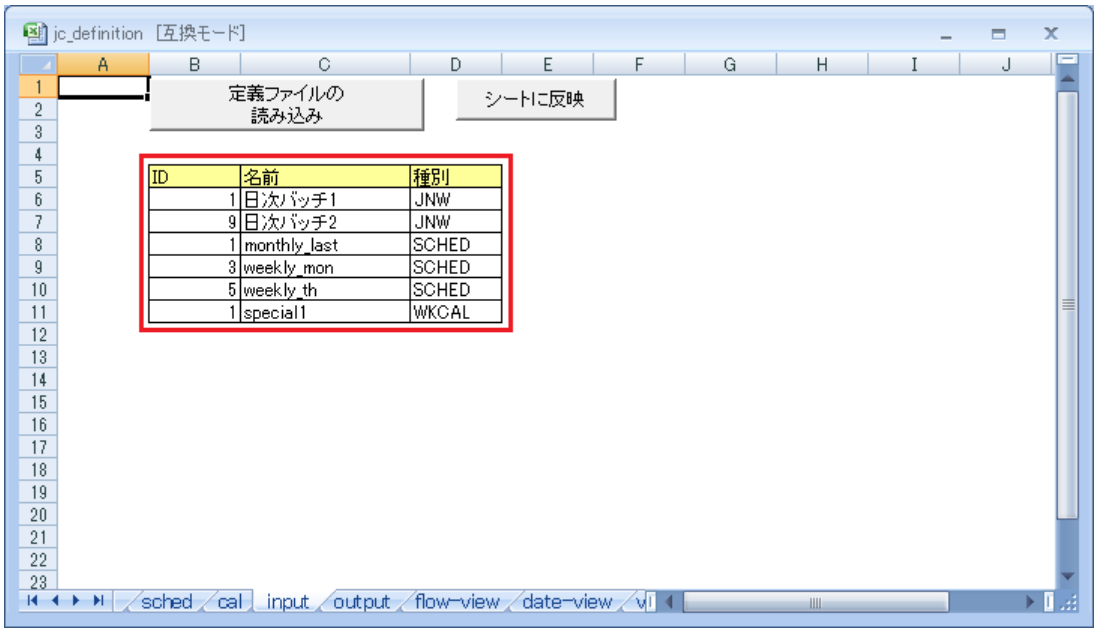


図3.7 JPFファイル読み込み後の状態

4. 「シートに反映」ボタンをクリックすると、読み込んだ定義情報が「jnw」シート、「sched」シート、「cal」シートに反映されます。

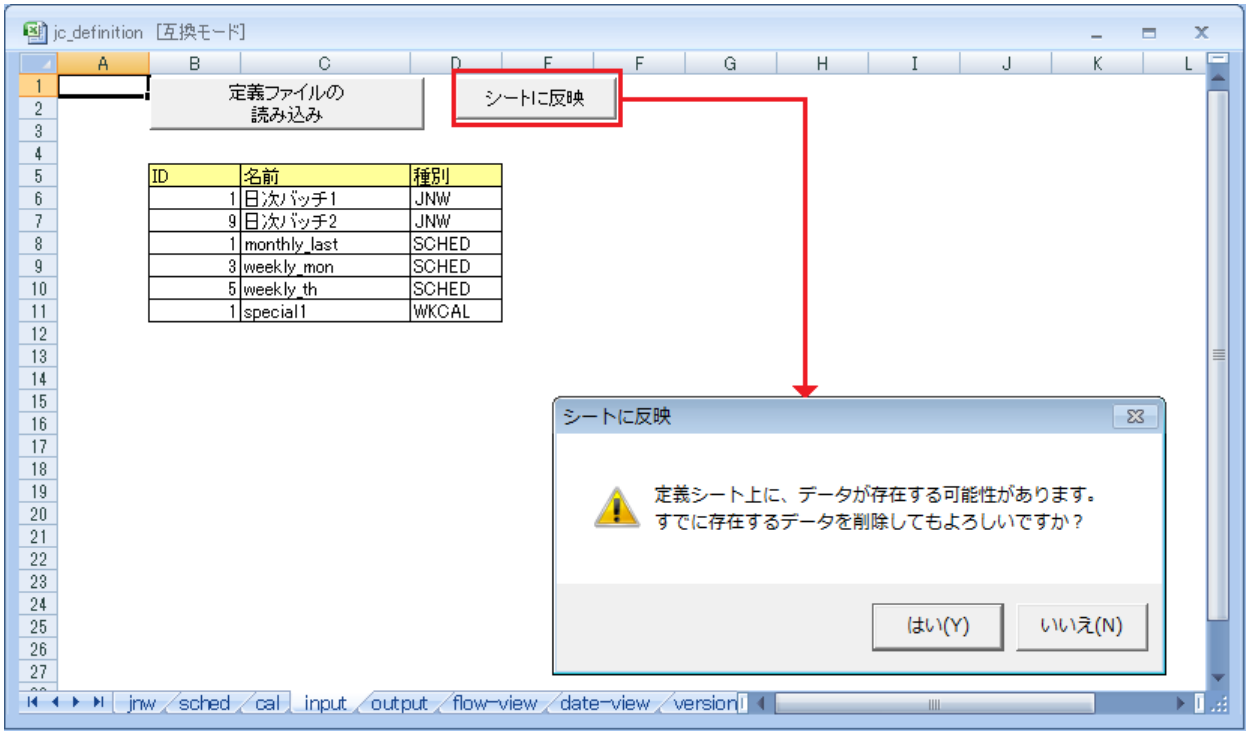


図3.8 メニュー[ダウンロード]

すでに定義シート（「jnw」シート、「sched」シート、「cal」シート）にデータが存在する場合に本操作を行なうと、既存のデータが削除されますので、十分注意してください。

3.4. ジョブネットワーク定義を編集する

「jnw」シートを使ってジョブネットワーク定義を編集します。

1. 「jnw」シートを表示します。

図3.9 jnwシート

2. １つの部品を１行に定義するフォーマットとなっていますので、設定・変更したいパラメータのセルを選択し、編集を行います。

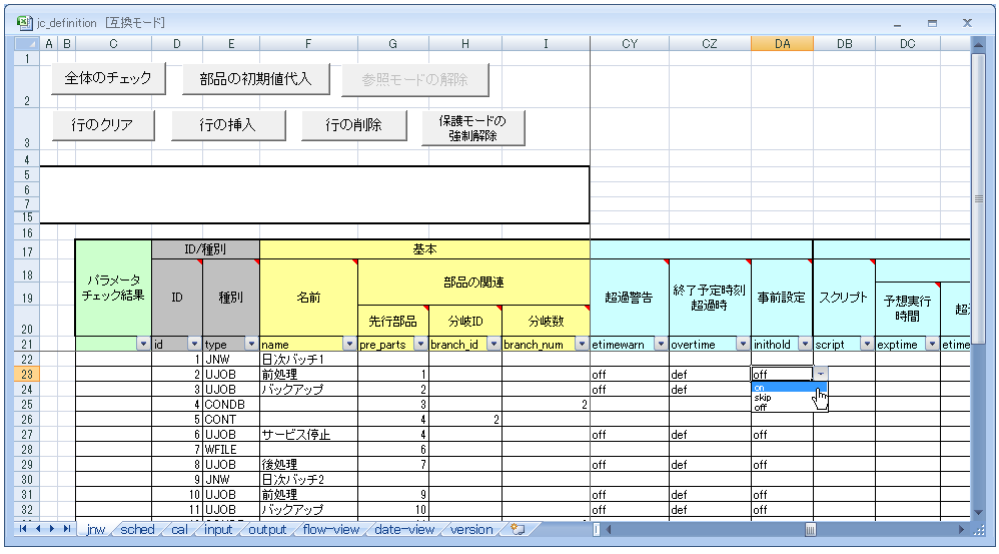


図3.10 jnwシートの編集

3. 各部品のパラメータにデフォルト値を設定したい場合は、対象部品が定義されている行のいずれかのセルを選択し、「部品の初期値代入」ボタンをクリックしてください。

図3.11 部品の初期値代入

4. 編集作業が終了したら、「全体のチェック」ボタンをクリックし、編集したジョブネットワーク定義のパラメータチェックを行なってください。パラメータチェックでエラーが発見されると、ボタン下のウィンドウ内にエラーとなった部品数等が表示されます。エラーとなった部品が定義されている行は、”パラメータチェック結果”欄に”×”が表示され、エラーとなったパラメータのセルが赤色で表示されますので、対象のパラメータを正しく設定してください。

図3.12 全体チェック

5. パラメータチェックの結果、設定した定義情報が正しい場合、ボタン下のウィンドウ内に「全てのチェックに成功しました。」と表示され、「参照モードに移行しますか？」というダイアログが表示されますので、移行する場合は「はい」ボタン、移行しない場合は「いいえ」ボタンをクリックしてください。

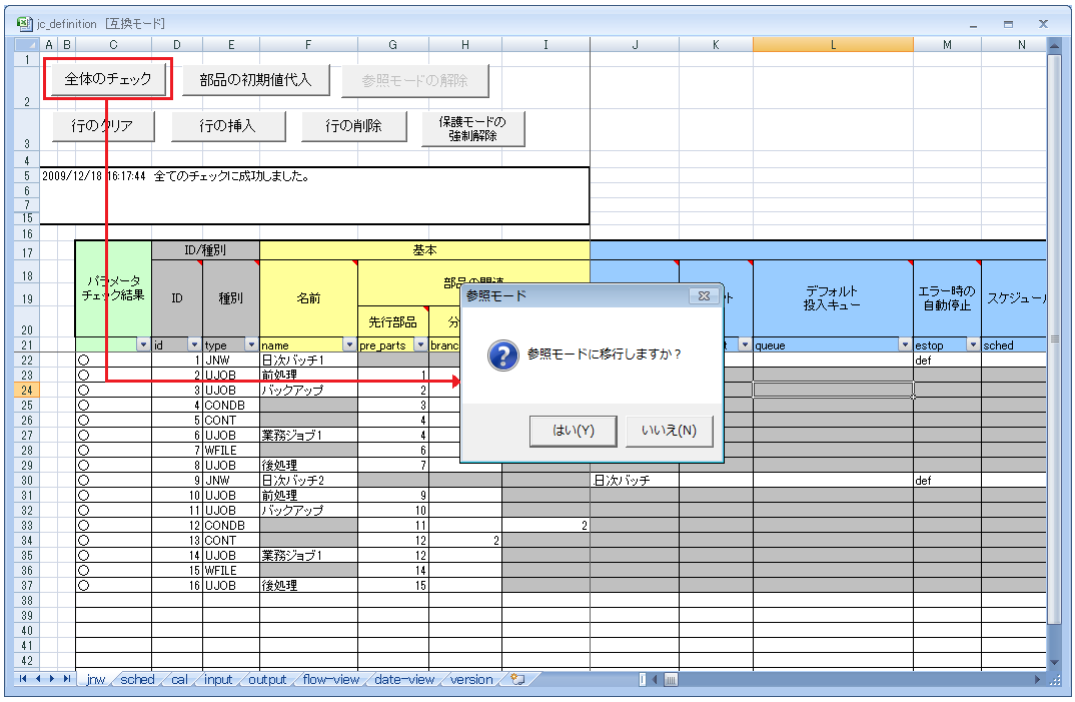


図3.13 参照モードへの移行

参照モードに移行すると、「flow-view」シートでジョブネットワークのフローを表示することができます。また、「output」シートでジョブネットワークの定義情報をJPFファイルに変換することができます。

3.5. スケジュール定義を編集する

「sched」シートを使ってスケジュール定義を編集します。

1. 「sched」シートを表示します。

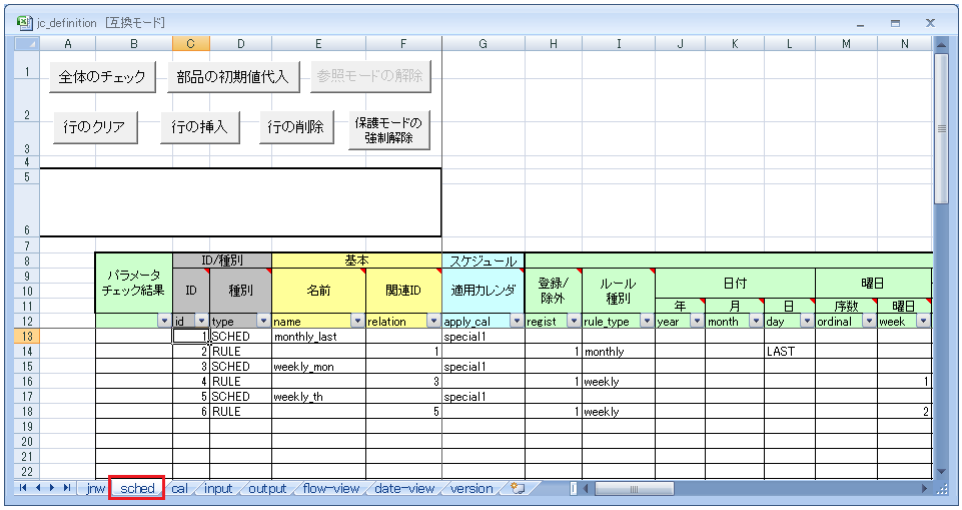


図3.14 schedシート

2. スケジュール、ルールをそれぞれ1行に定義するフォーマットとなっていますので、設定・変更したいパラメータのセルを選択し、編集を行います。

図3.15 schedシートの編集

3. ルールのパラメータにデフォルト値を設定したい場合は、対象のルールが定義されている行のいずれかのセルを選択し、「部品の初期値代入」ボタンをクリックしてください。

図3.16 部品の初期値代入

4. 編集作業が終了したら、「全体のチェック」ボタンをクリックし、スケジュール定義のパラメータチェックを行なってください。パラメータチェックでエラーが発見されると、ボタン下のウィンドウ内にエラーとなった部品数等が表示されます。エラーとなった部品が定義されている行は、”パラメータチェック結果”欄に”×”が表示され、エラーとなったパラメータのセルが赤色で表示されますので、対象のパラメータを正しく設定してください。

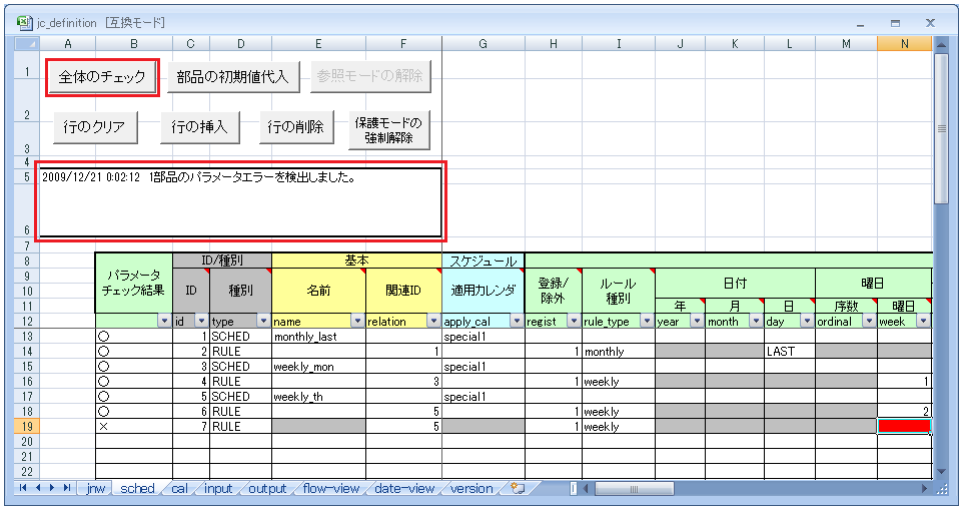


図3.17 全体チェック

5. パラメータチェックの結果、設定した定義情報が正しい場合、ボタン下のウィンドウ内に「全てのチェックに成功しました。」と表示され、「参照モードに移行しますか？」というダイアログが表示されますので、移行する場合は「はい」ボタン、移行しない場合は「いいえ」ボタンをクリックしてください。

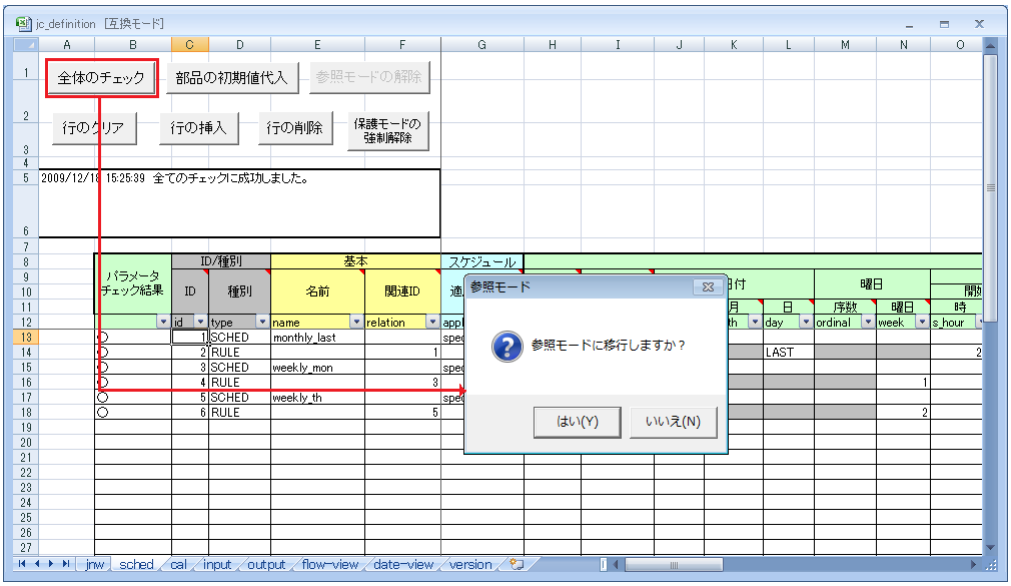


図3.18 参照モードへの移行

参照モードに移行すると、「date-view」シートでスケジュールを確認することができます。

「date-view」シートでスケジュールを確認したい場合、「cal」シートも参照モードに移行する必要があります。

3.6. カレンダ定義を編集する

「cal」シートを使ってカレンダ定義を編集します。

1. 「cal」シートを表示します。

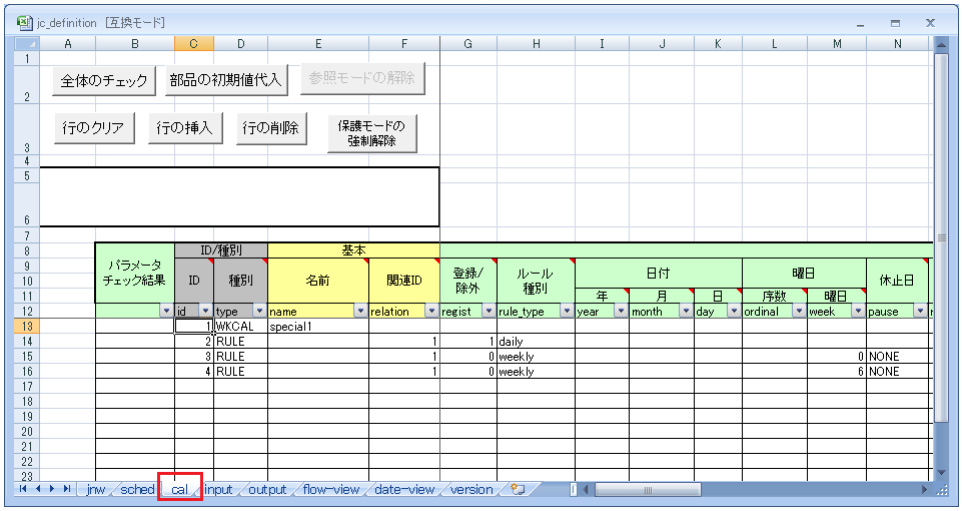


図3.19 calシート

2. カレンダ、ルールをそれぞれ1行に定義するフォーマットとなっていますので、設定・変更したいパラメータのセルを選択し、編集を行います。

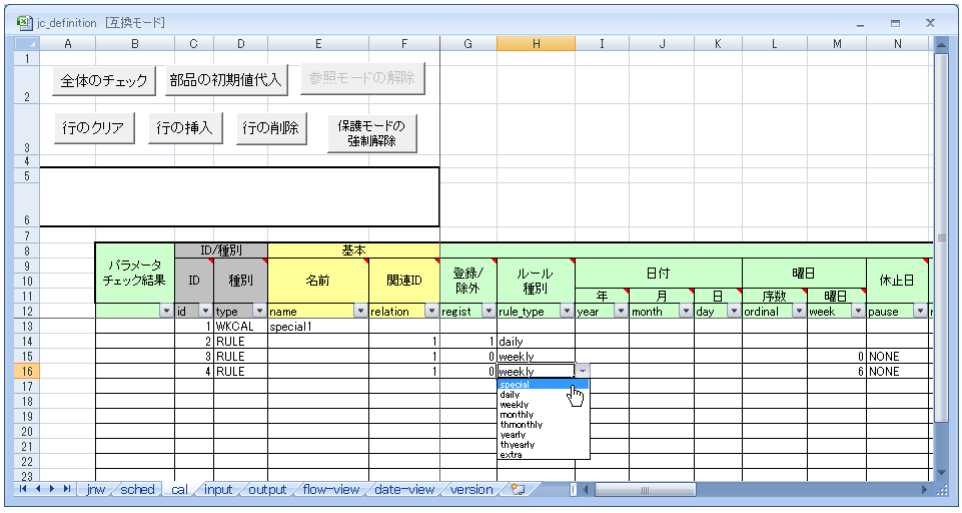


図3.20 calシートの編集

3. ルールのパラメータにデフォルト値を設定したい場合は、対象のルールが定義されている行のいずれかのセルを選択し、「部品の初期値代入」ボタンをクリックしてください。

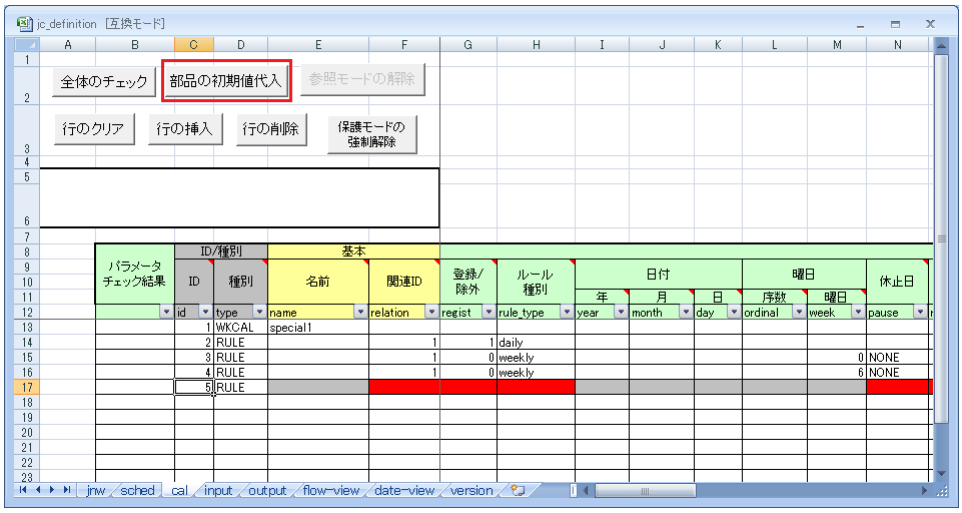


図3.21 部品の初期値代入

4. 編集作業が終了したら、「全体のチェック」ボタンをクリックし、カレンダ定義のパラメータチェックを行なってください。パラメータチェックでエラーが発見されると、ボタン下のウィンドウ内にエラーとなった部品数等が表示されます。エラーとなった部品が定義されている行は、”パラメータチェック結果”欄に”×”が表示され、エラーとなったパラメータのセルが赤色で表示されますので、対象のパラメータを正しく設定してください。

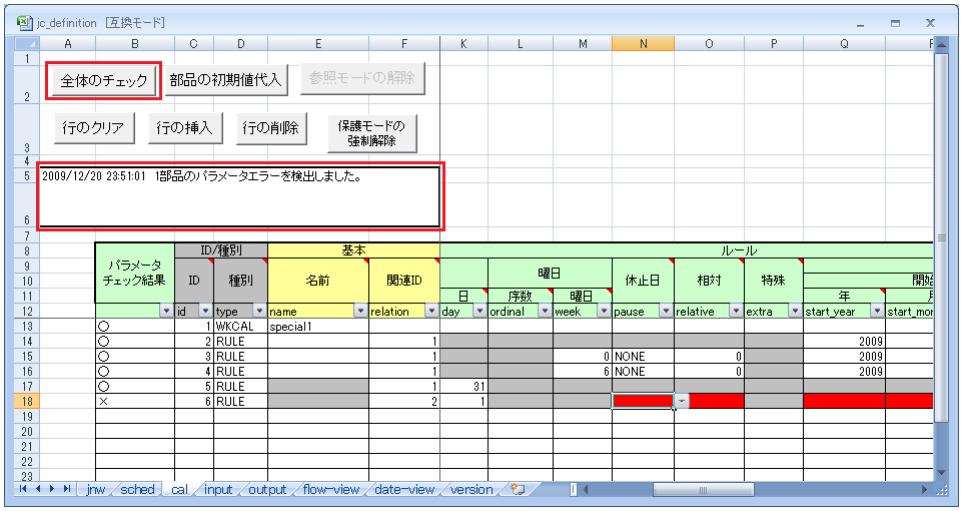


図3.22 全体チェック

5. パラメータチェックの結果、設定した定義情報が正しい場合、ボタン下のウィンドウ内に「全てのチェックに成功しました。」と表示され、「参照モードに移行しますか？」というダイアログが表示されますので、移行する場合は「はい」ボタン、移行しない場合は「いいえ」ボタンをクリックしてください。

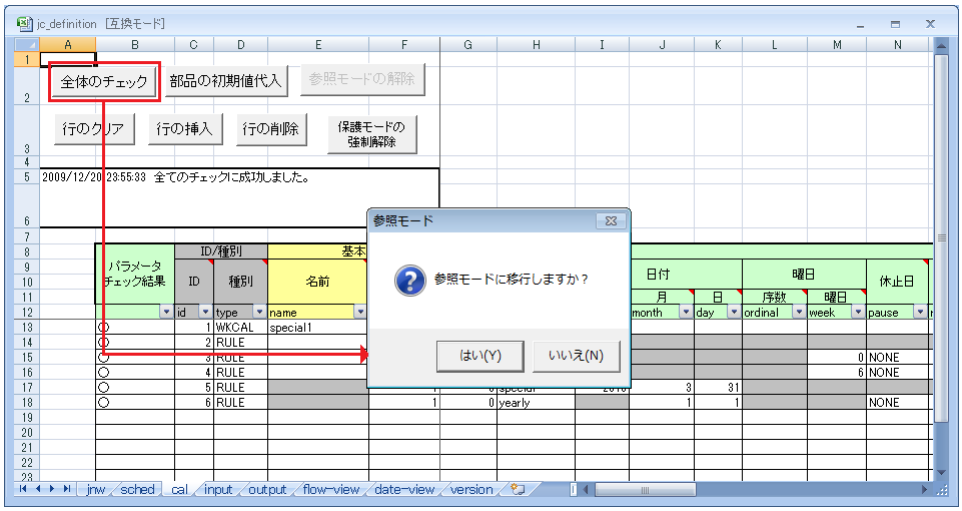


図3.23 参照モードへの移行

参照モードに移行すると、「date-view」シートでカレンダを確認することができます。

3.7. ジョブネットワークフローを確認する

「jnw」シートで編集したジョブネットワークのフロー図を確認します。

1. 「jnw」シートにおいて、「全体のチェック」ボタンをクリックし、参照モードに移行します。

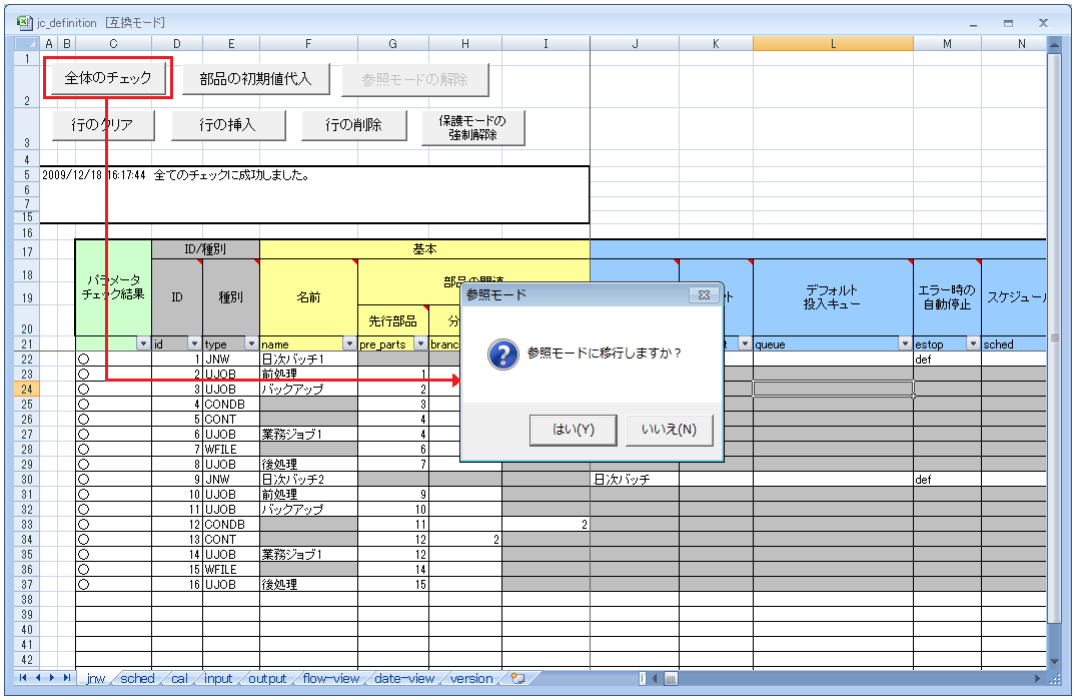


図3.24 参照モードへの移行(「jnw」シート)

2. 「flow-view」シートを表示します。

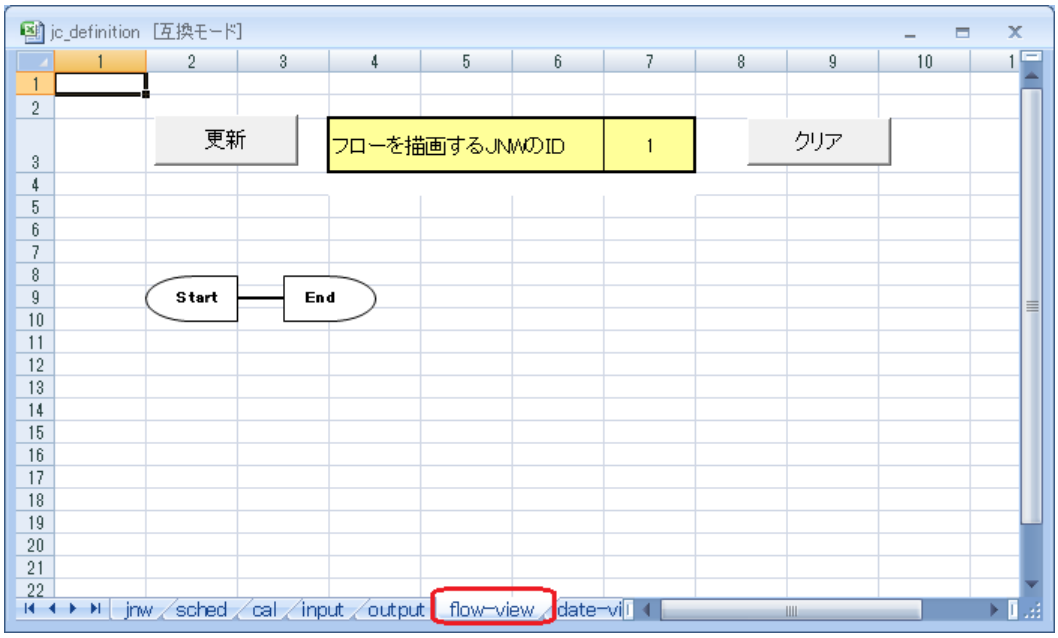


図3.25 flow-viewシート

3. ”フローを描写するJNWのID”欄に表示したいJNWのIDを入力し、「更新」ボタンをクリックすると、入力したIDのJNWフローを確認することができます。

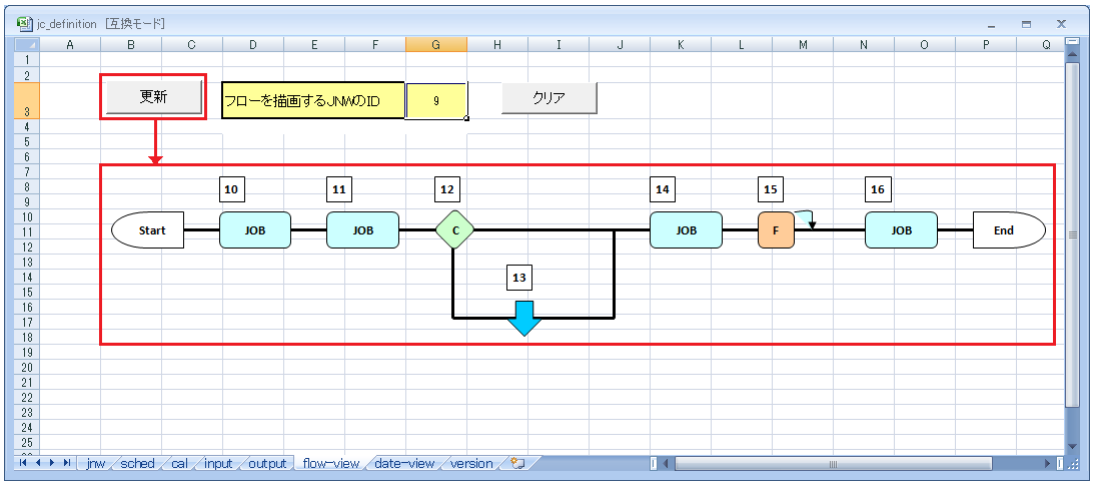


図3.26 JNWフローの確認

注記

確認したJNWフローを別のブックにコピー＆ペーストすると、フローの一覧等を生成することができます。

3.8. スケジュール・カレンダを確認する

「sched」シート、「cal」シートで編集したスケジュールの実行日時、またはカレンダの稼働日を確認します。

1. 「sched」シート及び「cal」シートにおいて、「全体のチェック」ボタンをクリックし、それぞれ参照モードに移行します。

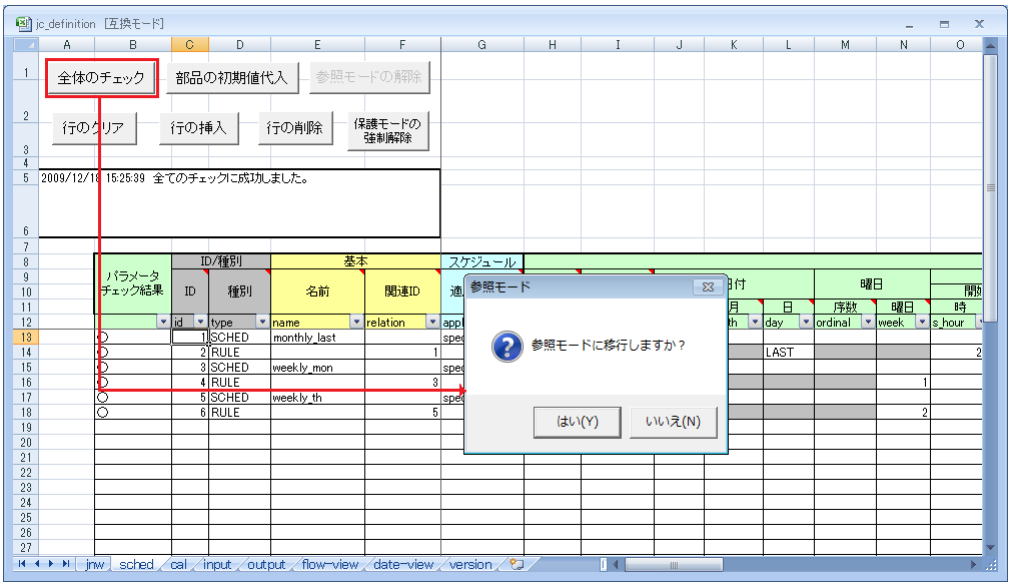


図3.27 参照モードへの移行（「sched」シートの例）

2. 「date-view」シートを表示し、「更新対象の変更」ボタンをクリックして更新対象の設定画面を表示します。

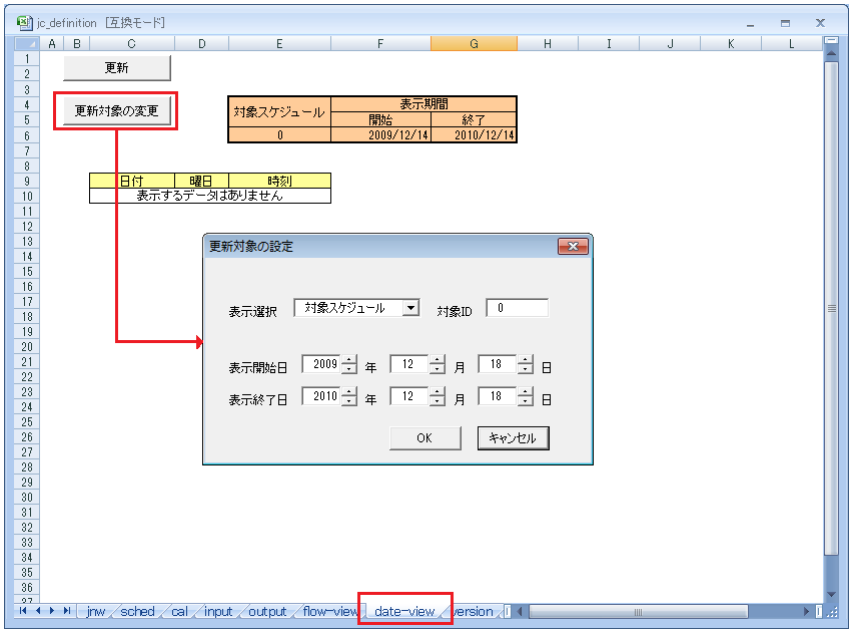


図3.28 date-viewシート

3. 以下の項目を入力し、「OK」ボタンをクリックします。

■”表示選択”：カレンダを表示したい場合は”対象カレンダ”、スケジュールを表示したい場合は”対象スケジュール”を選択します。

■”対象ID”：表示したいカレンダ、スケジュールのIDを入力します。

■”表示開始日”、”表示終了日”：表示期間を入力します。

4. 「date-view」シートに戻り「更新」ボタンをクリックすると、カレンダを選択した場合は稼働日を、スケジュールを選択した場合はスケジュールされている日時を確認することができます。

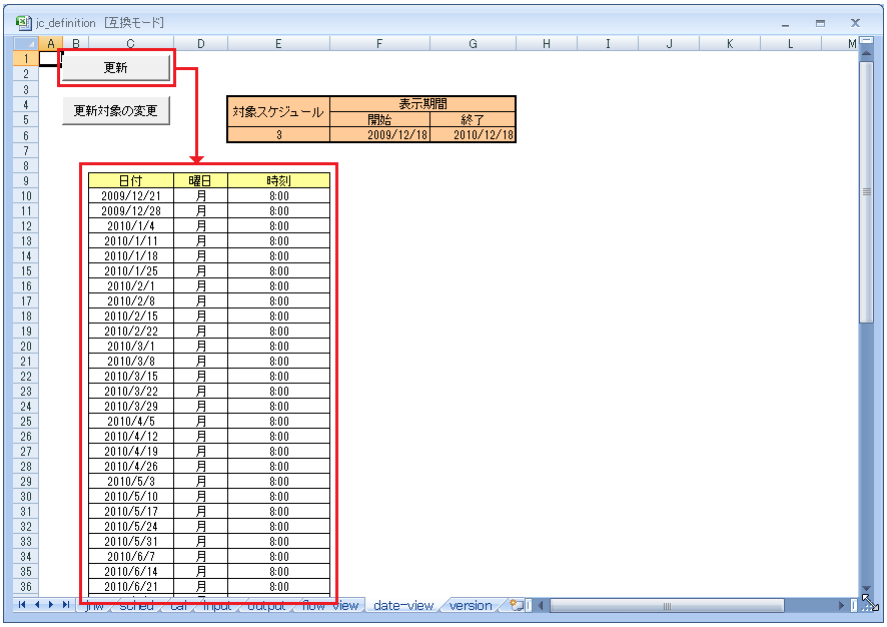


図3.29 スケジュール日時の出力例

3.9. 定義をJPFファイルに変換する

必要な編集作業を終えたら、データをサーバへアップロードするためにJPFファイルを出力します。

1. 各定義の編集を終えたら「全体のチェック」ボタンをクリックし、「jnw」シート、「sched」シート、「cal」シートを全て参照モードに移行します。

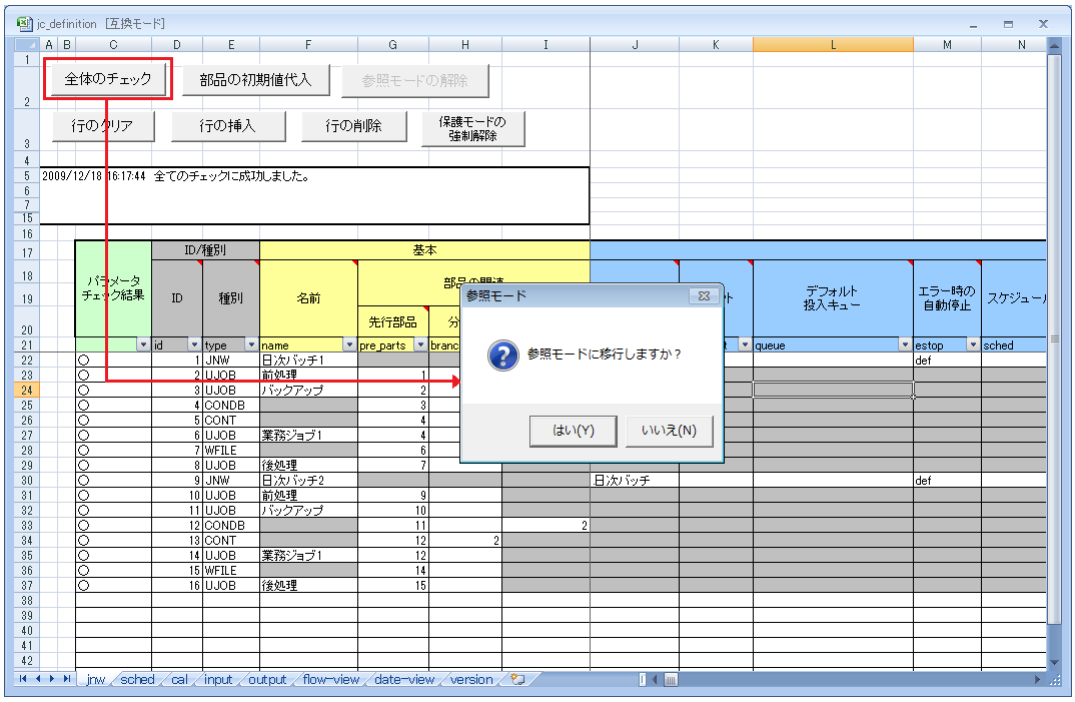


図3.30 参照モードへの移行(図は「jnw」シートの例)

2. 「output」シートを表示し、「シートから取り込み」ボタンをクリックします。

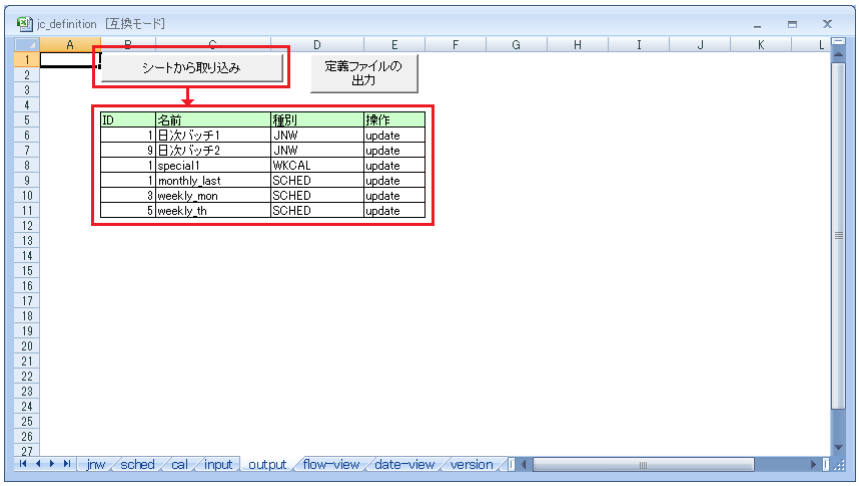


図3.31 outputシート

3. 各定義データの一覧が下に表示されるので、それぞれのアップロード時の操作を選択します。

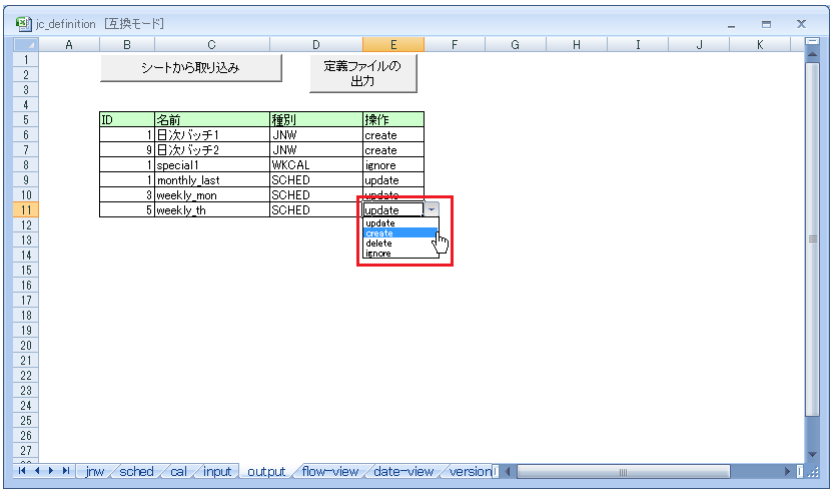


図3.32 操作の選択例

4. 最後に「定義ファイルの出力」ボタンをクリックして、JPFファイルの出力先を選択して保存します。

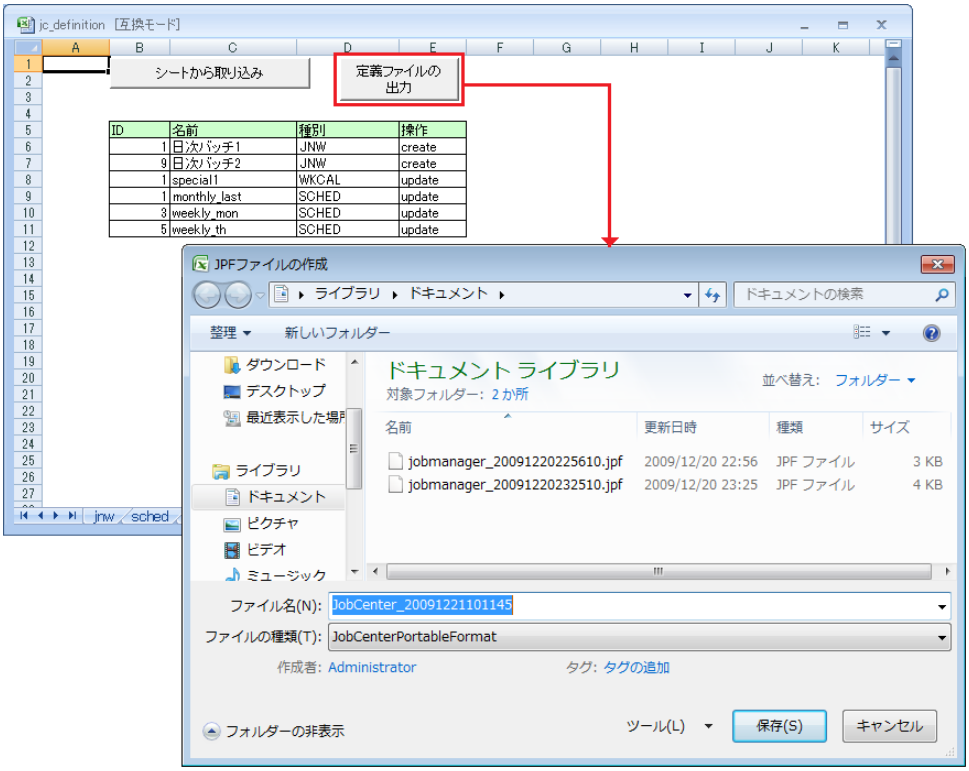


図3.33 JPFファイルの出力

3.10. JPFファイルをサーバにアップロードする

Excelから出力したJPFファイルをサーバへアップロードします。

1. CL/Winから対象のJobCenterサーバに、定義データを所有させたいユーザで接続します。

2. メニューバーの[ファイル(F)]-[Definition Helper]-[アップロード(U)]からアップロードしたいJPFファイルを選択します。

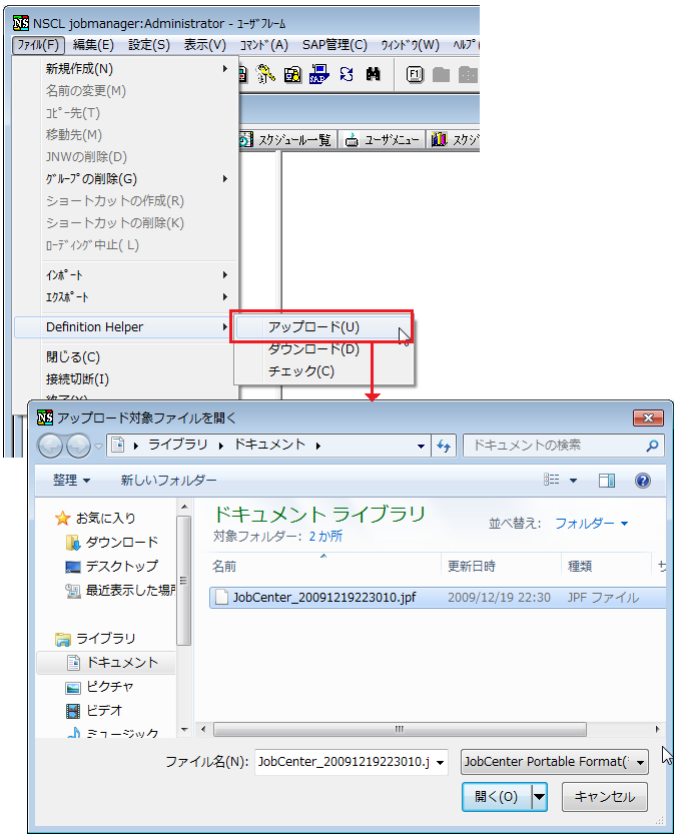


図3.34 メニュー[アップロード]

3. 「定義のアップロード」ダイアログが表示され、しばらくするとアップロード処理の結果が表示されます。

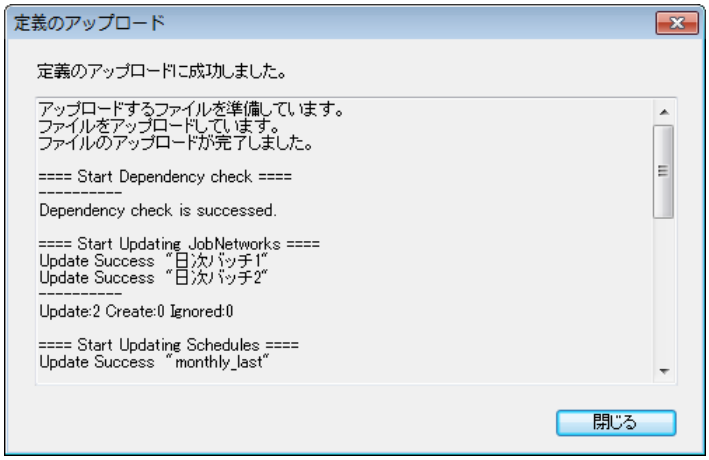


図3.35 アップロード結果

3.11. ジョブネットワークを新規作成する

Excelを使ってジョブネットワークを新規に作成するには、フローの依存関係を手動で定義する必要があります。このため、あらかじめフローの完成図を想定し、それを元に順に依存関係を定義していくことを推奨します。

ここでは以下のようなジョブネットワークをExcelで定義する場合の例を説明します。

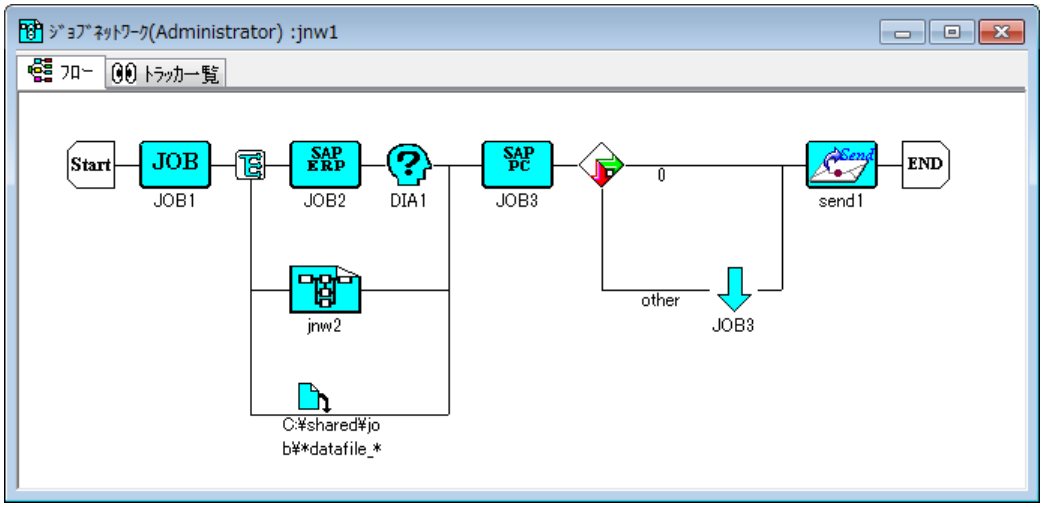


図3.36 サンプルジョブネットワーク

使用する部品の種別と名前は以下の通りです。

部品名	説明	種別
jnw1	ジョブネットワーク	JNW
JOB1	単位ジョブ	UJOB
(なし)	並列分岐	PARAB
JOB2	ERPジョブ	ERPJOB
DIA1	ダイアログ部品	DIA
jnw2	サブジョブネットワーク	SJNW
(なし)	ファイル待合	WFILE
JOB3	プロセスチェーン・ジョブ	PCJOB
(なし)	条件分岐	CONDB
(なし)	コンティニュー部品	CONT
send1	イベント送信部品	EVTSND

なお、本節ではジョブネットワークフローの定義方法にフォーカスをあてて説明するため、各部品のパラメータの指定方法については説明しません。各パラメータの具体的な設定方法については「ジョブネットワークの作成(JNWシート)」を参照してください。

また以下の説明では、Excelへの入力例として、その手順で新しく入力したセルを水色で表示します。

1. 「jc_definition.xls」を開き、「jnw」シートを表示します。

2. ID、種別、名前を以下のように入力します。また各部品のパラメータに必要な値を入力します。

ID	種別	名前	先行部品	分岐ID	分岐数
10	JNW	jnw1			
20	UJOB	JOB1			
30	PARAB				
40	ERPJOB	JOB2			
50	DIA	DIA1			
60	SJNW	jnw2			
70	WFILE				
80	PCJOB	JOB3			
90	CONDB				
100	CONT				
110	EVTSND	send1			

3. フローの先頭は単位ジョブJOB1なので、ID=20(JOB1)の先行部品としてID=10(jnw1)を指定します。

ID	種別	名前	先行部品	分岐ID	分岐数
10	JNW	jnw1			
20	UJOB	JOB1	10		
30	PARAB				
40	ERPJOB	JOB2			
50	DIA	DIA1			
60	SJNW	jnw2			
70	WFILE				
80	PCJOB	JOB3			
90	CONDB				
100	CONT				
110	EVTSND	send1			

4. 単位ジョブJOB1の後ろには並列分岐部品を配置するので、ID=30(並列分岐)の先行部品にID=20(JOB1)を指定します。またこの並列分岐は3つの分岐をもつので、分岐数に3を入力します。

ID	種別	名前	先行部品	分岐ID	分岐数
10	JNW	jnw1			
20	UJOB	JOB1	10		
30	PARAB		20		3
40	ERPJOB	JOB2			
50	DIA	DIA1			
60	SJNW	jnw2			
70	WFILE				
80	PCJOB	JOB3			
90	CONDB				
100	CONT				

ID	種別	名前	先行部品	分岐ID	分岐数
110	EVTSND	send1			

5. 並列分岐の各分岐の先頭には、それぞれ単位ジョブJOB2、サブジョブネットワークjnw2、ファイル待合部品を配置します。これら3つの部品の先行部品には全てID=30(並列分岐)を指定しますが、どの分岐に配置するかを指定するために分岐IDを指定します。分岐IDは上から順に1,2,3,…と指定するので、それぞれ以下のように入力します。

ID	種別	名前	先行部品	分岐ID	分岐数
10	JNW	jnw1			
20	UJOB	JOB1	10		
30	PARAB		20		3
40	ERPJOB	JOB2	30	1	
50	DIA	DIA1			
60	SJNW	jnw2	30	2	
70	WFILE		30	3	
80	PCJOB	JOB3			
90	CONDB				
100	CONT				
110	EVTSND	send1			

6. ERPジョブJOB2の次にはダイアログ部品DIA1を配置するので、ID=50(DIA1)の先行部品としてID=40(JOB2)を指定します。

ID	種別	名前	先行部品	分岐ID	分岐数
10	JNW	jnw1			
20	UJOB	JOB1	10		
30	PARAB		20		3
40	ERPJOB	JOB2	30	1	
50	DIA	DIA1	40		
60	SJNW	jnw2	30	2	
70	WFILE		30	3	
80	PCJOB	JOB3			
90	CONDB				
100	CONT				
110	EVTSND	send1			

7. 並列分岐の後ろにはプロセスチェーン・ジョブJOB3を配置するので、ID=80(JOB3)の先行部品にID=30(並列分岐)を指定します。このとき分岐IDは指定しないようにします。先行部品が分岐部品で分岐IDを指定していない場合、分岐したパスではなく分岐部品全体の後ろに配置されます。

ID	種別	名前	先行部品	分岐ID	分岐数
10	JNW	jnw1			
20	UJOB	JOB1	10		
30	PARAB		20		3
40	ERPJOB	JOB2	30	1	

ID	種別	名前	先行部品	分岐ID	分岐数
50	DIA	DIA1	40		
60	SJNW	jnw2	30	2	
70	WFILE		30	3	
80	PCJOB	JOB3	30		
90	CONDB				
100	CONT				
110	EVTSND	send1			

8. プロセスチェーン・ジョブJOB3の後ろに条件分岐を配置するので、ID=90(条件分岐)の先行部品にID=80(JOB3)を指定します。条件分岐は2つに分岐するので、分岐数に2を入力します。

ID	種別	名前	先行部品	分岐ID	分岐数
10	JNW	jnw1			
20	UJOB	JOB1	10		
30	PARAB		20		3
40	ERPJOB	JOB2	30	1	
50	DIA	DIA1	40		
60	SJNW	jnw2	30	2	
70	WFILE		30	3	
80	PCJOB	JOB3	30		
90	CONDB		80		2
100	CONT				
110	EVTSND	send1			

9. 条件分岐の下パスにはコンティニュー部品を配置するので、ID=100(コンティニュー部品)の先行部品にID=90(条件分岐)を指定します。このとき分岐IDとして2を指定します。

ID	種別	名前	先行部品	分岐ID	分岐数
10	JNW	jnw1			
20	UJOB	JOB1	10		
30	PARAB		20		3
40	ERPJOB	JOB2	30	1	
50	DIA	DIA1	40		
60	SJNW	jnw2	30	2	
70	WFILE		30	3	
80	PCJOB	JOB3	30		
90	CONDB		80		2
100	CONT		90	2	
110	EVTSND	send1			

10.条件分岐の後ろにイベント送信部品send1を配置するので、ID=110(send1)の先行部品にID=90(条件分岐)を指定します。このとき分岐IDは指定しません。

ID	種別	名前	先行部品	分岐ID	分岐数
10	JNW	jnw1			

ID	種別	名前	先行部品	分岐ID	分岐数
20	UJOB	JOB1	10		
30	PARAB		20		3
40	ERPJOB	JOB2	30	1	
50	DIA	DIA1	40		
60	SJNW	jnw2	30	2	
70	WFILE		30	3	
80	PCJOB	JOB3	30		
90	CONDB		80		2
100	CONT		90	2	
110	EVTSND	send1	90		

11.全ての入力が完了したら、「全体のチェック」ボタンをクリックし、入力した値に問題がないことを確認します。依存関係に問題がある場合、ボタン下のウィンドウ内にエラーの内容が表示されるので、内容を確認して修正を行います。

図3.37 全体チェック

上の図の例では、ID=30(並列分岐)の分岐数が2にも関わらず、ID=70(ファイル待合部品)が分岐ID=3を指定しているのが問題とわかります。分岐数は3が正しいので、ID=30(並列分岐)の分岐数を3に修正します。

依存関係に問題がなく、参照モードに移行できたらジョブネットワークの作成は完了です。

作成したジョブネットワークのフローが意図した通りに作成できているかどうかを確認するには「ジョブネットワークフローを確認する」を参照してください。

また、作成したジョブネットワークをサーバへアップロードするには「定義をJPFファイルに変換する」及び「JPFファイルをサーバにアップロードする」を参照してください。

第4章 機能詳細

本章ではDefinition Helperが持つ各機能について詳細に説明します。

4.1. ジョブネットワークの作成(JNWシート)

Definition　Helperを用いてジョブネットワークを作成する機能について説明します。「jnwシート」を使用することでジョブネットワークを作成することができます。「jnwシート」を選択すると図4.1「jnwシート」のようなシートが表示されます。

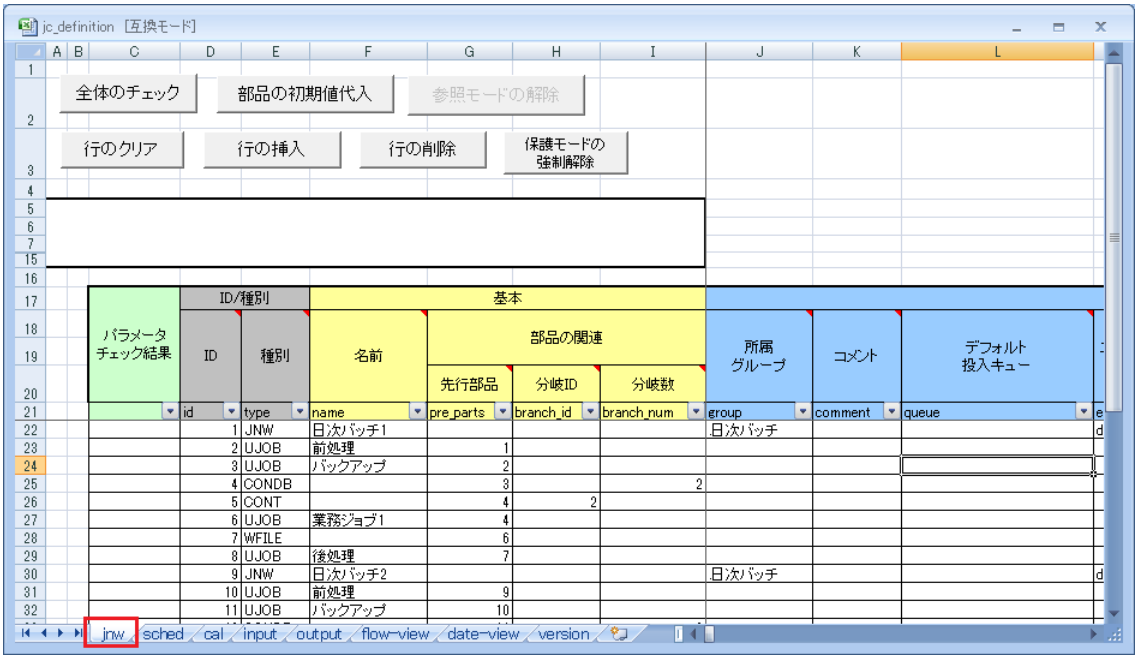


図4.1 jnwシート

4.1.1. IDと種別

ジョブネットワークを作成するためにはジョブネットワーク、およびジョブネットワーク中に配置する部品を一意に識別するためのIDと部品の種別を決定する必要があります。IDと種別で設定できる値は次の通りです。

■ID

シートで一意な部品のIDを指定します。

・設定範囲

0-999999

■種別

項目名	説明
JNW	ジョブネットワーク
UJOB	単位ジョブ
ERPJOB	SAP ERPジョブ
BIJOB	SAP BIジョブ
PCJOB	SAP PCジョブ
UCXSJOB	UCXシングルジョブ
SJNW	サブジョブネットワーク

項目名	説明
DIA	ダイアログ
CONDB	条件分岐
CALB	カレンダ分岐
PARAB	並列分岐
ORB	OR分岐
WSJNW	サブジョブ待ち
CONT	コンティニュー
WJOB	ジョブ待ち
WFILE	ファイル待ち
WTIME	時刻待ち
EVTSND	イベント送信
EVTRCV	イベント受信

4.1.2. 部品共通設定

部品の種別に関わらず共通で設定する項目として、「名前」と「部品の関連」があります。「名前」は各部品の名前を決定するために使用します。「部品の関連」は、ジョブネットワーク内での順序関係、分岐部品を利用した分岐を決定するために使用し、「先行部品」、「分岐ID」、「分岐数」の三種類の設定を行います。それぞれの設定可能なパラメータは次の通りです。

■名前

部品の名前を指定します。

・設定可能な部品種別

・ジョブネットワーク

・単位ジョブ部品

・ERPジョブ部品

・BIジョブ部品

・PCジョブ部品

・UCXSingleジョブ部品

・サブジョブネットワーク部品

・ダイアログ部品

・イベント送信部品

・イベント受信部品

・文字制限

1. 名前の最初の文字はアルファベット、アンダーライン、2バイト文字しか使用できません。

2. スペース、タブ、改行および以下の文字は使用できません。

!"#$%&'()*,/:;<=>?@[¥]^`{|}~|

■部品の関連-先行部品

先行部品のIDを指定します。JNWの先頭の部品は先行部品としてJNWを指定します。JNWは先行部品を指定しません。

・設定範囲

0-999999

■部品の関連-分岐ID

先行部品が分岐部品の場合に、どの枝に接続するか指定します。空欄の場合は分岐IDは0とみなされ、先行の分岐部品自体を先行部品とみなします。先行部品が分岐部品でない場合は空欄にしてください。

・設定範囲

0-999999

■部品の関連-分岐数

分岐部品の場合に、分岐数を設定します。分岐部品(CONDB,ORB,CALB,PARAB)以外は空欄になります。

・設定範囲

0-999999

4.1.3. ジョブネットワーク

種別に「JNW」(ジョブネットワーク)を選択した時に設定できるパラメータは次の通りです。

■所属グループ

ジョブネットワークの所属グループを指定します。グループに所属していない場合は空欄になります。フォーマットは以下のように「.」で始めてグループ階層を「.」で区切って並べます。

・フォーマット

.<group1>.<group2>.<group3>

・文字制限

1. 名前の最初の文字はアルファベット、アンダーライン、2バイト文字しか使用できません。

2. スペース、タブ、改行および以下の文字は使用できません。

!"#$%&'()*,/:;<=>?@[¥]^`{|}~

■コメント

ジョブネットワークにつけるコメントを指定します。トラッカー覧に表示されます。

・文字制限

タブ、改行および以下の文字は使用できません。

^#$;()[]{}¥|<>"&'

■デフォルト投入キュー

このジョブネットワークに属する各ジョブを投入するキューを指定します。

・フォーマット

フォーマットは以下のとおりです。マシン名は必ず入れるようにしてください。

〈キュー名〉@〈マシン名〉

・文字制限

・キュー名

半角英数字、アンダーラインのみ入力可能です。また、最初の文字を数字にすることはできません。

・マシン名

1. 数値のみの名前は使用できません。

2. スペース、タブ、改行および以下の文字は使用できません。

! " # $ % & ' ( ) * , . / : ; < = +> ? @ [¥] ^ ` { | } ~

■エラー時の自動停止

ジョブネットワークを実行中にエラーが発生したときのジョブネットワークの動作を指定します。

・設定範囲

"def" - 「規定」 サブジョブネットワークとして実行されている場合は、その親ジョブネットワークのパラメータに従います。それ以外は、ユーザ環境設定での設定に従います。

"stop" - 「停止」 エラー発生時にジョブネットワークを停止します。

"thru" - 「停止しない」 エラー発生時にジョブネットワークを停止しません。

"quit" - 「中断」 エラー発生時にジョブネットワークの実行を中断します。（後続のジョブをスキップ状態にします。）

■スケジュール

ジョブネットワークを関連付けるスケジュールを指定します。

・文字制限

1. 名前の最初の文字はアルファベット、アンダーライン、2バイト文字しか使用できません。

2. 空白、タブ、特殊文字および以下の文字は使用できません。

!"#$%&'()*,./:;<=>?@[¥]^`{|}~

■同時起動可能数-起動数

同時起動可能数にはジョブネットワークを同時に起動できる数を指定します。ここが空欄の場合には制限はありません。また、この設定はサブジョブネットワークには適用されません。

・設定範囲

1-9999

■同時起動可能数-待ち状態

起動可能数を超えた場合の処理を設定します。

・設定範囲

"wait" - 「予定」 制限数を超えた場合には実行中のジョブネットワークが終了するのを待って実行します。複数のジョブネットワークが待ち合わせる場合は予定開始時刻の早いジョブネットワークが優先されます。この場合、トラッカの状態は「予定」になります。

"skip" - 「スキップ」 制限数を超えた場合にはその後に投入されるジョブネットワークの実行は全てスキップされます。この場合、トラッカの状態は「スキップ」になります。

■ERPジョブの自動スタート

ERPジョブは投入されるとSubmit　状態になりますが、この項目を”on”に設定すると、Submitから自動的にrun 状態になります。”off”の場合、ERP ジョブを自動スタートしません。

・設定範囲

"def" - 「既定」

"on" - 「する」

"off" - 「しない」

■シミュレーション実行

この属性が設定されていた場合には、そのジョブネットワークは全てのジョブの実行時、予定されているジョブスクリプトの代わりに、空のジョブ（スクリプト）を実行します。このパラメータが”on”に設定されている間は、全ての即時実行、カレンダ実行がシミュレーション実行になります。

・設定範囲

"on"

"off"

■事前設定

ジョブネットワークを実行した時のジョブネットワークの状態を設定します。

・設定範囲

"hold" - 「保留」

"skip" - 「スキップ」

"off" - 「オフ」

■予想実行時間-指定方法

予想実行時間の指定方法を設定します。

・設定範囲

"set" - 「直接指定」 ジョブネットワークのパラメータの値（”時間”パラメータ）をジョブネットワークの予想実行時間とします。

"res" - 「前回実績」 正常終了した最近のジョブネットワークの実行実績から、ジョブネットワーク全体の予想実行時間を算出します。

"cal" - 「下位累積」 正常終了した最近のジョブネットワーク内部のジョブあるいはサブジョブネットワーク単位の予想実行時間から、ジョブネットワーク全体の予想実行時間を算

出します。ジョブネットワーク内部のジョブあるいはサブジョブネットワークの予想実行時間は、それぞれの予想実行時間の設定方法に依存します。

■予想実行時間-時間

指定方法で直接指定(set)を選択した場合に、時間を入力します。単位によって値の設定範囲が異なります。

・設定範囲

0-31536000 "second" - 「秒」

0-525600 "minute" - 「分」

0-8760 "hour" -「時間」

■超過警告

予想実行時間を過ぎてもジョブネットワークが終了しない場合に、統合監視サービスやWindowsイベントログに警告メッセージを出力するかどうか設定します。

・設定範囲

"on" - 警告メッセージを出力します。

"off" - 警告メッセージを出力しません

■終了予定時刻超過時

超過警告onの場合に、予想実行時間を過ぎてもジョブネットワークが終了しない時の動作を設定します。

・設定範囲

"def" - 「規定」

"cont" - 「停止しない」

"stop" - 「停止する」

"skip" - 「スキップ」

■クリティカルポイント警告-警告動作の有無

onの場合、クリティカルポイント警告機能が有効になります。

・設定範囲

"on"

"off"

■クリティカルポイント警告-検査箇所

検査の実行点を指定します。

・設定範囲

"start" - 「実行開始点」

"end" - 「実行終了点」

"both" - 「すべて」

■クリティカルポイント警告-実行開始点-警告時刻

検査時刻を24時間制の時刻か、相対時刻で指定します。

・フォーマット

①絶対時刻

00:00～23:59

②相対時間

+00:00～+23:59

+000:00～+999:59

■クリティカルポイント警告-実行開始点-自動操作

警告発生時の動作を指定します。

・設定範囲

"off" - 「なし」

"skip" - 「スキップ」

"hold" - 「保留」

■クリティカルポイント警告-実行終了点-警告時刻

検査時刻を24時間制の時刻か、相対時刻指定します。

・フォーマット

①絶対時刻

00:00～23:59

②相対時間

+00:00～+23:59

+000:00～+999:59

■クリティカルポイント警告-実行終了点-自動操作

警告発生時の動作を指定します。

・設定範囲

"off" - 「なし」

"skip" - 「スキップ」

"forcestop" - 「強制停止」

"hold" - 「保留」

■環境変数

単位ジョブ実行時に付与される環境変数を設定することができます。環境変数は下記フォーマットで「変数」、「値」、「コメント」を1行で記述します。複数の変数を設定したい場合は改行(エスケープシーケンスの"¥n"ではなく、Excelの改行)を入れて複数行同じフォーマットで記述します。

・ フォーマット

"'変数','値','コメント'"

・ エスケープシーケンス

コメントに改行を入れたい場合は以下のエスケープシーケンスを使用します。

¥n - 改行 -(コメントのみ)

・ 文字制限

タブ、スペース、改行および以下の文字は使用できません。

= #"'

■メール設定-エラー時のメール送信

このジョブネットワークでエラー発生時にメールを送信するかどうかを設定します。

・ 設定範囲

"on" - 「する」

"off" - 「しない」

■メール設定-TO

メールの宛先アドレスを設定します。カンマ","で区切って、複数のアドレスを指定することができます。「エラー時のメール送信」で「する」を選択している場合、必ず入力してください。

・ 文字制限

1. 1024バイトまで設定可能です。

2. ひとつのメールアドレスの最大長は250バイトです。

3. 複数のメールアドレスを設定する場合、64個以内で設定可能です。

4. 2バイト文字、スペース、および以下の文字は使用できません。

' ( ) + : ;<>"

■メール設定-CC

メールの宛先アドレスを設定します。カンマ","で区切って、複数のアドレスを指定することができます。

・ 文字制限

1. 1024バイトまで設定可能です。

2. ひとつのメールアドレスの最大長は250バイトです。

3. 複数のメールアドレスを設定する場合、64個以内で設定可能です。

4. 2バイト文字、スペース、改行および以下の文字は使用できません。

' ( ) + : ;<>"

■メール設定-FROM

メールの送信元アドレスを設定します。「エラー時のメール送信」で「する」を選択している場合、必ず入力してください。

・ 文字制限

1. 250バイトまで設定可能です。

2. 2バイト文字、空白、および以下の文字は使用できません。

'( ) + : ;<>"

■メール設定-件名

送信するメールの件名を入力します。

・ 文字制限

1. 1024バイトまで設定可能です。

2. 件名の末尾にカンマ",」を使用することは出来ません。

3. 以下の文字は使用できません。

, "

■メール設定-本文

送信するメールの本文を入力します。

・ エスケープシーケンス

以下のエスケープシーケンスを認識します。

改行 -> ¥n

¥ -> ¥b

・ 文字制限

1. 1024バイトまで設定可能です。

2. エスケープ対象文字および以下の文字は使用できません。

, "

■メール設定-SMTPサーバ

SMTP　サーバを指定します。SMTP　サーバのホスト名、またはIP(v4)アドレスを入力してください。「エラー時のメール送信」で「する」を選択している場合、必ず入力してください。ユーザ環境設定「SMTPサーバ」において共通SMTPサーバを設定した場合には、本欄は無効です。

・ 文字制限

1. 256バイトまで設定可能です。

2. スペース、タブ、半角カタカナ、全角文字、改行および以下の文字は使用できません。

！″＃＄％＆’（）＊，／：；＜＝＞？＠［￥］＾｀｛｜｝～

■補正時刻

JNW個別の補正時刻を設定します。本項目はシステム環境設定で、「ジョブネットワーク個別の設定を行う」を設定した場合にのみ有効です。

・設定範囲

①絶対時刻

00:00 ～ 23:59

②相対時刻

-23:59 ～ -00:00

4.1.4. 単位ジョブ

種別に「UJOB」(単位ジョブ)を選択した時に設定できるパラメータは次の通りです。

■スクリプト

単位ジョブのスクリプトを記述します。

・文字制限

改行、(″)ダブルクォート、(¥)円マーク(バックスラッシュ)を直接記述することはできません。これらを記述する際には下記のエスケープシーケンスを使用します。

・エスケープシーケンス

改行 -> ¥n

″ -> ¥w

¥ -> ¥b

■投入キュー

ジョブを投入するキューを指定します。

・フォーマット

フォーマットは以下のとおりです。マシン名は必ず入れるようにしてください。

<キュー名>@<マシン名>

・キュー名

半角英数字、アンダーラインのみ入力可能です。また、最初の文字を数字にすることはできません。

・マシン名

1. 数値のみの名前は使用できません。

2. スペース、タブ、改行および以下の文字は使用できません。

！″＃＄％＆’（）＊，．／：；＜＝+>？＠［￥］＾｀｛｜｝～

■キュー内優先度

キュー内でのジョブの優先度を指定できます。値が大きいほど優先されます。空欄とした場合は、31が適用されます。

・設定範囲

0-63

■ジョブ実行ユーザ

ジョブを実行するユーザを指定します。空欄にした場合は、ジョブネットワークの所有者が実行するユーザになります。

・文字制限

スペース、タブ、改行および以下の文字は使用できません。

! " # $ % ( ) * , . / : ; < = > ? @ [¥] ^ ` { | } ~

■Unixパラメータ(プロセス単位)-ナイス値

Unixのナイス値を設定します。

・設定範囲

-127-+127

■Unixパラメータ(プロセス単位)-CPU時間

利用できるCPU時間を設定します。

・設定範囲

"no" - 「無指定」

"unlimited" - 「無制限」

0-9999 "second"

0-9999 "minute"

0-9999 "hour"

0-9999 "day"

■UNIXパラメータ(プロセス単位)-メモリサイズ

利用できるメモリサイズを設定します。

・設定範囲

"no" - 「無指定」

"unlimited" - 「無制限」

0-99999999 "byte"

0-99999999 "kb"

0-99999999 "mb"

0-99999999 "gb"

■UNIXパラメータ(プロセス単位)-永久ファイルサイズ

利用できる永久ファイルサイズを設定します。

・設定範囲

"no" - 「無指定」

"unlimited" - 「無制限」

0-99999999 "byte"

0-99999999 "kb"

0-99999999 "mb"

0-99999999 "gb"

■UNIXパラメータ(プロセス単位)-データセグメントサイズ

利用できるデータセグメントサイズを設定します。

・設定範囲

"no" - 「無指定」

"unlimited" - 「無制限」

0-99999999 "byte"

0-99999999 "kb"

0-99999999 "mb"

0-99999999 "gb"

■UNIXパラメータ(プロセス単位)-スタックサイズ

利用できるスタックサイズを設定します。

・設定範囲

"no" - 「無指定」

"unlimited" - 「無制限」

0-99999999 "byte"

0-99999999 "kb"

0-99999999 "mb"

0-99999999 "gb"

■UNIXパラメータ(プロセス単位)-コアファイルサイズ

出力可能なコアファイルサイズを設定します。

・設定範囲

"no" - 「無指定」

"unlimited" - 「無制限」

0-99999999 "byte"

0-99999999 "kb"

0-99999999 "mb"

0-99999999 "gb"

■標準出力先

標準出力の出力先ファイル名です。

・ 文字制限

以下の文字は使用できません。

!¥"#$&'()*,;<>?[]^`{|}~

■標準エラー出力先

標準エラー出力の出力先ファイル名です。

・ 文字制限

以下の文字は使用できません。

!¥"#$&'()*,;<>?[]^`{|}~

■変数継承

このジョブで指定した環境変数を次のジョブにどのように引き継ぐかを指定します。

・ 設定範囲

"n" - 「OFF」

"o" - 「標準出力」

"e" - 「標準エラー出力」

■クリティカルポイント警告-警告動作の有無

onの場合、クリティカルポイント警告機能が有効になります。

・ 設定範囲

"on"

"off"

■クリティカルポイント警告-検査箇所

検査の実行点を指定します。

・ 設定範囲

"start" - 「実行開始点」

"end" - 「実行終了点」

"both" - 「すべて」

■クリティカルポイント警告-実行開始点-警告時刻

検査時刻を24時間制の時刻か、相対時刻で指定します。

・フォーマット

①絶対時刻

00:00～23:59

②相対時間

+00:00～+23:59

+000:00～+999:59

■クリティカルポイント警告-実行開始点-警告時刻

警告発生時の動作を指定します。

・設定範囲

"off" - 「なし」

"skip" - 「スキップ」

"hold" - 「保留」

■クリティカルポイント警告-実行終了点-警告時刻

検査時刻を24時間制の時刻か、相対時刻で指定します。

・フォーマット

①絶対時刻

00:00～23:59

②相対時間

+00:00～+23:59

+000:00～+999:59

■クリティカルポイント警告-実行終了点-自動操作

警告発生時の動作を指定します。

・設定範囲

"off" - 「なし」

"skip" - 「スキップ」

"forcestop" - 「強制停止」

"hold" - 「保留」

■スクリプト実行用シェルコマンド

バッチリクエストを実行するシェルを絶対パスで指定します。

・文字制限

以下の文字は使用できません。

!¥"#$%&'()*,;<=>?@[]^`{|}~

■リスタート

システム再起動時にジョブが自動的に再実行されるかどうかを指定します。

・設定範囲

"on" - 「ENABLE」

"off" - 「DISABLE」

■終了コード-警告終了コード開始値

警告終了の有無と、警告終了とみなす終了コードの開始値を指定します。この値より小さい数値が正常終了とみなされます。この値は「エラー終了コード開始値」より、小さい値を設定する必要があります。警告終了を指定しない場合は空欄にします。

・設定範囲

1-254

■終了コード-エラー終了コード開始値

エラー終了とみなす終了コードの開始値を指定します。「警告終了コード開始値」を設定している場合は、その値より大きい値を指定します。

・設定範囲

0-254

■予想実行時間-指定方法

予想実行時間の指定方法を設定します。

・設定範囲

"set" - 「直接指定」予想実行時間を直接指定します。

"res" - 「前回実績」 正常終了した最近の単位ジョブの実行実績を予想実行時間とします。

■予想実行時間-時間

指定方法で直接指定(set)を選択した場合に、時間を入力します。単位によって値の設定範囲が異なります。

・設定範囲

0-31536000 "second" - 「秒」

0-525600 "minute" - 「分」

0-8760 "hour" -「時間」

0-365 "day" - 「日」

■ジョブステップリスタート

マシンダウン時等にスクリプト内のチェックポイントで最後に通過した箇所からジョブを再実行するかどうかを設定します。UNIX版のみ有効な機能です。

・設定範囲

"on" - 「ENABLE」

"off" - 「DISABLE」

■超過警告

予想実行時間を過ぎてもジョブネットワークが終了しない場合に、統合監視サービスやWindowsイベントログに警告メッセージを出力するかどうか設定します。

・設定範囲

"on" - 警告メッセージを出力します。

"off" - 警告メッセージを出力しません

■終了予定時刻超過時

超過警告onの場合に、予想実行時間を過ぎてもジョブネットワークが終了しない時の動作を設定します。

・設定範囲

"def" - 「既定」

"cont" - 「停止しない」

"stop" - 「停止する」

"skip" - 「スキップ」

■事前設定

ジョブをあらかじめ保留状態またはスキップ状態としておきます。ジョブネットワークの開始後に保留解除またはスキップ解除操作を行う必要があります。

・設定範囲

"on" - 「保留」

"skip" - 「スキップ」

"off" - 「オフ」

4.1.5. ERPジョブ

種別に「ERPJOB」(ERPジョブ)を選択した時に設定できるパラメータは次の通りです。

■スクリプト

スクリプトを記述します。

・文字制限

改行、(")ダブルクォート、(¥)円マーク(バックスラッシュ)を直接記述することはできません。これらを記述する際には下記のエスケープシーケンスを使用します。

・エスケープシーケンス

改行 -> ¥n

" -> ¥w

¥ -> ¥b

■ジョブパラメータ-予想実行時間

予想実行時間を入力します。

・設定範囲

0-31536000 "second" - 「秒」

0-525600 "minute" - 「分」

0-8760 "hour" -「時間」

0-365 "day" - 「日」

■ジョブパラメータ-超過警告

予想実行時間を過ぎてもジョブネットワークが終了しない場合に、統合監視サービスやWindows イベントログに警告メッセージを出力するかどうか設定します。

・設定範囲

"on" - 警告メッセージを出力します。

"off" - 警告メッセージを出力しません

■ジョブパラメータ-終了予定時刻超過時

超過警告onの場合に、予想実行時間を過ぎてもジョブネットワークが終了しない時の動作を設定します。

・設定範囲

"def" - 「規定」

"cont" - 「停止しない」

"stop" - 「停止する」

"skip" - 「スキップ」

■ジョブパラメータ-事前設定

ジョブをあらかじめ保留状態またはスキップ状態としておきます。ジョブネットワークの開始後に保留解除またはスキップ解除操作を行う必要があります。

・設定範囲

"on" - 「保留」

"skip" - 「スキップ」

"off" - 「オフ」

■ERPパラメータ-ERPジョブ名

SAP ERP システム上のジョブ名を指定します。

・文字制限

半角英数字(小文字は不可)のみ使用可能です。

■ERPパラメータ-ERP接続先

destconf.f ファイルに定義した接続先パラメータセット名を設定します。

・文字制限

スペース、タブ、改行、半角カタカナ、全角文字および以下の文字は使用できません。

!"#$%&'(),/:;<=>?@[¥]^`{|}~

■実行ホスト

SAP ERPジョブを実行するホスト名を、ホスト名_SAPシステム名_SAPシステム番号の形式で指定します。省略した場合、接続対象のSAP ERPシステムの負荷分散機能に依存します。

・文字制限

スペース、タブ、改行、半角カタカナ、全角文字および以下の文字は使用できません。

!"#$%&'(),/:;<=>?@[¥]^`{|}~

■ERPジョブの自動リスタート

SAP ERP ジョブの自動スタートの可否を指定します。

・設定範囲

"def" - 「規定」

"on" - 「ON」

"off" - 「OFF」

■ERPパラメータ-ジョブクラス

SAP ERP ジョブの実行優先度を設定します。

・設定範囲

"A" - 「実行優先度を高に設定します」

"B" - 「実行優先度を中に設定します」

"C" - 「実行優先度を低に設定します」

■ERPパラメータ-ジョブログ出力-する/しない

SAP ERP ジョブのジョブログ情報を出力するかどうかを設定します。

・設定範囲

"on" - 「する」

"off" - 「しない」

■ERPパラメータ-ジョブログ出力-出力ライン数

SAP ERP ジョブのジョブログのうち、JobCenter に取り込むライン数を指定します。デフォルト値は1000 行です。出力ライン数に0を指定した場合は、全てのジョブログをJobCenter に取り込みます。

・設定範囲

0-999999

■ERPパラメータ-スプール出力-する/しない

SAP ERP ジョブのスプール情報を出力するか設定します。

・設定範囲

"on" - 「する」

"off" - 「しない」

■ERPパラメータ-スプール出力-出力ライン数

スプールの出力ライン数を指定します。デフォルト値は、“0”（すべて）です。正数を指定した場合は、スプールの先頭から指定したライン数だけ出力を行います。負数を設定した場合は、スプールの末尾から指定したライン数だけ 出力を行います。

・設定範囲

-99999-99999

■ERPパラメータ-クリティカルポイント警告-警告動作の有無

onの場合、クリティカルポイント警告機能が有効になります。

・設定範囲

"on"

"off"

■ERPパラメータ-クリティカルポイント警告-検査箇所

検査の実行点を指定します。

・設定範囲

"start" - 「実行開始点」

"end" - 「実行終了点」

"both" - 「すべて」

■ERPパラメータ-クリティカルポイント警告-実行開始点-警告時刻

検査時刻を24時間制の時刻か、相対時刻で指定します。

・フォーマット

①絶対時刻

00:00～23:59

②相対時間

+00:00～+23:59

+000:00～+999:59

■ERPパラメータ-クリティカルポイント警告-実行開始点-自動操作

警告発生時の動作を指定します。

・設定範囲

"off" - 「なし」

"skip" - 「スキップ」

"hold" - 「保留」

■ERPパラメータ-クリティカルポイント-警告実行終了点-警告時刻

検査時刻を24時間制の時刻か、相対時刻で指定します。

・フォーマット

①絶対時刻

00:00～23:59

②相対時間

+00:00～+23:59

+000:00～+999:59

■ERPパラメータ-クリティカルポイント警告-実行終了点-自動操作

警告発生時の動作を指定します。

・設定範囲

"off" - 「なし」

"skip" - 「スキップ」

"forcestop" - 「強制停止」

"hold" - 「保留」

4.1.6. BIジョブ

種別に「BIJOB」(BIジョブ)を選択した時に設定できるパラメータは次の通りです。

■ジョブパラメータ-予想実行時間

予想実行時間を入力します。

・設定範囲

0-31536000 "second" - 「秒」

0-525600 "minute" - 「分」

0-8760 "hour" -「時間」

0-365 "day" - 「日」

■ジョブパラメータ-超過警告

予想実行時間を過ぎてもジョブが終了しない場合に、統合監視サービスやWindows イベントログに警告メッセージを出力するかどうか設定します。

・設定範囲

"on" - 警告メッセージを出力します。

"off" - 警告メッセージを出力しません

■ジョブパラメータ-事前設定

ジョブをあらかじめ保留状態またはスキップ状態としておきます。ジョブネットワークの開始後に保留解除またはスキップ解除操作を行う必要があります。

・設定範囲

"on" - 「保留」

"skip" - 「スキップ」

"off" - 「オフ」

■BIジョブパラメータ-BI接続先名

destconf.f ファイルに定義した接続先パラメータセット名を設定します。

・文字制限

半角英数字のみ入力可能です。スペース、タブ、改行、半角カタカナ、全角文字、および以下の文字は使用できません。

!"#$%&'()*,/:;<=>?@[¥]^`{|}~

■BIジョブパラメータ-論理インフォパッケージID

SAP BI システム上の（"ZPAK_"で始まる）インフォパッケージの技術名称を指定します。

・文字制限

半角英数字のみ入力可能です。　スペース、タブ、改行、半角カタカナ、全角文字、特殊文字および以下の文字は使用できません。

!"#$%&'(+-)*.,/:;<=>?@[¥]^`{|}~

■BIジョブパラメータ-BIジョブ名

SAP BI システム上でのバックグラウンドジョブ名を指定します。

・文字制限

1. 名前の最初の文字はアルファベット、アンダーライン、特殊文字しか使用でません。

2. スペース、タブ、改行、半角カタカナ、全角文字および以下の文字は使用できません。

   !"#$%&'(),/:;<=>?@[¥]^`{|}~

■クリティカルポイント警告-警告動作の有無

onの場合、クリティカルポイント警告機能が有効になります。

・設定範囲

"on"

"off"

■クリティカルポイント警告-検査箇所

検査の実行点を指定します。

・設定範囲

"start" - 「実行開始点」

"end" - 「実行終了点」

"both" - 「すべて」

■クリティカルポイント警告-実行開始点-警告時刻

検査時刻を24時間制の時刻か、相対時刻で指定します。

・フォーマット

①絶対時刻

00:00～23:59

②相対時間

+00:00～+23:59

+000:00～+999:59

■クリティカルポイント警告-実行終了点-警告時刻

検査時刻を24時間制の時刻か、相対時刻を指定します。

・フォーマット

①絶対時刻

00:00～23:59

②相対時間

+00:00～+23:59

+000:00～+999:59

4.1.7. PCジョブ

種別に「PCJOB」(PCジョブ)を選択した時に設定できるパラメータは次の通りです。

■接続先名

destconf.f ファイルに定義した接続先パラメータセット名を設定します。

■プロセスチェーン名

SAP BI システム上のプロセス・チェーン名を指定します。

■クリティカルポイント警告-警告動作の有無

onの場合、クリティカルポイント警告機能が有効になります。

・設定範囲

"on"

"off"

■クリティカルポイント警告-検査箇所

検査の実行点を指定します。

・設定範囲

"start" - 「実行開始点」

"end" - 「実行終了点」

"both" - 「すべて」

■クリティカルポイント警告-実行開始点-警告時刻

検査時刻を24時間制の時刻か、相対時刻で指定します。

・フォーマット

①絶対時刻

00:00～23:59

②相対時間

+00:00～+23:59

+000:00～+999:59

■クリティカルポイント警告-実行終了点-警告時刻

検査時刻を24時間制の時刻か、相対時刻を指定します。

・フォーマット

①絶対時刻

00:00～23:59

②相対時間

+00:00～+23:59

+000:00～+999:59

■予想実行時間

予想実行時間を設定します。

・設定範囲

0-31536000 "second" - 「秒」

0-525600 "minute" - 「分」

0-8760 "hour" -「時間」

0-365 "day" - 「日」

■超過警告

予想実行時間を過ぎてもジョブが終了しない場合に、統合監視サービスやWindows イベントログに警告メッセージを出力するかどうか設定します。

・ 設定範囲

"on" - 警告メッセージを出力します。

"off" - 警告メッセージを出力しません。

■事前設定

ジョブをあらかじめ保留状態またはスキップ状態としておきます。ジョブネットワークの開始後に保留解除またはスキップ解除操作を行う必要があります。

・ 設定範囲

"on" - 「保留」

"skip" - 「スキップ」

"off" - 「オフ」

4.1.8. UCXSingleジョブ

種別に「UCXSJOB」(UCXSingleジョブ)を選択した時に設定できるパラメータは次の通りです。

■動作設定名

Universal Connect/X の動作設定アプレットで設定されているJOBID を指定します。本設定項目は必須の設定項目です。

・ 文字制限

半角英数字で、最大512 文字以内で入力してください。

■UCXサーバ名（またはIPアドレス）

Universal Connect/X のサーバ名、もしくは、IP アドレスを指定します。本設定項目は必須の設定項目です。

・ 文字制限

半角英数字で、最大255 文字以内で入力してください。

■データファイル名

実際に印刷するデータファイル名を設定します

・ 文字制限

ファイル名を絶対パス表記、512 文字以内で入力します。2 バイト文字は設定できません。

■データファイル詳細-エンコーディング自動判別-する/しない

データファイルのエンコーディングの動作を指定します。

・ 設定範囲

"on"

"off"

■データファイル詳細-エンコーディング自動判別-エンコーディング名

自動判別がoffの場合に、CSV データファイルあるいはXML データファイルをエンコードする場合のエンコーディング名を指定します。

・ 文字制限

半角英数字で、最大512 文字以内で入力します。

■データファイル詳細-データファイル種別

データファイルがUTF-8 フォーマットであるかどうかを指定します。デフォルトは、UTF8以外の種別です。

・ 設定範囲

"utf8" - utf8

"rest" - utf8以外

■データファイル詳細-処理後のデータファイルの扱い

UCXSingleの処理後に、UCXSingleジョブを実行するJobCenter上のデータファイルを削除するかどうかを指定します。

・ 設定範囲

"nondel" - 処理後、データファイルを削除しません。

"del" - 処理後、データファイルを削除します。

"cond" - 処理が異常終了した場合にデータファイルを削除しません。

■結果-UCXサーバの処理結果を待つ

UCXSingle ジョブがUCX サーバの処理の結果を待ち合わせて終了するかを設定します。

・ 設定範囲

"on"

"off"

■結果-情報の取得-処理ページ数

1JOB 間の印刷ページ数を取得します。

・ 設定範囲

"on"

"off"

■結果-情報の取得-文書管理番号

Report Director Enterprise にスプールする際の文書管理番号を取得します。

・ 設定範囲

"on"

"off"

■結果-出力ファイルをUCXクライアントにダウンロード-する/しない

出力ファイルをUCX クライアントにダウンロードするかを設定します。

・ 設定範囲

"on"

"off"

■結果-出力ファイルをUCXクライアントにダウンロード-出力ファイル名

UCX クライアントにダウンロードする出力ファイル名を設定します。

・ 文字制限

出力ファイル名を絶対パス表記で512　文字以内で入力します。2　バイト文字は設定できません。

■結果-出力ファイルをUCXクライアントにダウンロード-上書き保存

同一の出力ファイル名が存在する場合、上書き保存するかどうかを設定します。

・ 設定範囲

"on"

"off"

■結果-出力ファイルをUCXクライアントにダウンロード-ファイル圧縮

出力ファイルをUniversal Connect/X サーバからUCXSingle 実行環境に転送する際に、ファイルを圧縮するかどうか設定します。

・ 設定範囲

"on"

"off"

■クリティカルポイント警告-警告動作の有無

onの場合、クリティカルポイント警告機能が有効になります。

・ 設定範囲

"on"

"off"

■クリティカルポイント警告-検査箇所

検査の実行点を指定します。

・ 設定範囲

"start" - 「実行開始点」

"end" - 「実行終了点」

"both" - 「すべて」

■クリティカルポイント警告-実行開始点-警告時刻

検査時刻を24時間制の時刻か、相対時刻で指定します。

・フォーマット

①絶対時刻

00:00～23:59

②相対時間

+00:00～+23:59

+000:00～+999:59

■クリティカルポイント警告-実行開始点-自動操作

警告発生時の動作を指定します。

・設定範囲

"off" - 「なし」

"skip" - 「スキップ」

"hold" - 「保留」

■クリティカルポイント警告-実行終了点-警告時刻

検査時刻を24時間制の時刻か、相対時刻を指定します。

・フォーマット

①絶対時刻

00:00～23:59

②相対時間

+00:00～+23:59

+000:00～+999:59

■クリティカルポイント警告-実行終了点-自動操作

警告発生時の動作を指定します。

・設定範囲

"off" - 「なし」

"skip" - 「スキップ」

"forcestop" - 「強制停止」

"hold" - 「保留」

■予想実行時間-指定方法

予想実行時間の指定方法を設定します。

・設定範囲

"set" - 「直接指定」予想実行時間を直接指定します。

"res" - 「前回実績」 正常終了した最近の単位ジョブの実行実績を予想実行時間とします。

■予想実行時間-時間

指定方法で直接指定(set)を選択した場合に、時間を入力します。単位によって値の設定範囲が異なります。

・設定範囲

0-31536000 "second" - 「秒」

0-525600 "minute" - 「分」

0-8760 "hour" -「時間」

0-365 "day" - 「日」

■超過警告

予想実行時間を過ぎてもジョブが終了しない場合に、統合監視サービスやWindows イベントログに警告メッセージを出力するかどうか設定します。

・設定範囲

"on" - 警告メッセージを出力します。

"off" -警告メッセージを出力しません

■終了予定時刻超過時

超過警告ONの場合に、予想実行時間を過ぎてもジョブが終了しない時の動作を設定します。

・設定範囲

"def" - 「規定」

"cont" - 「停止しない」

"stop" - 「停止する」

"skip" - 「スキップ」

■事前設定

ジョブをあらかじめ保留状態またはスキップ状態としておきます。ジョブネットワークの開始後に保留解除またはスキップ解除操作を行う必要があります。

・設定範囲

"on" - 「保留」

"skip" - 「スキップ」

"off" - 「オフ」

4.1.9. サブジョブネットワーク

種別に「SJNW」(サブジョブネットワーク)を選択した時に設定できるパラメータはありません。
サブジョブネットワークに指定するジョブネットワークは「基本-名前」で指定します。

4.1.10. ダイアログ

種別に「DIA」(ダイアログ)を選択した時に設定できるパラメータは次の通りです。

■メッセージ

ユーザに問い合わせるメッセージを指定します。

・ 文字制限

タブ、改行および以下の文字は使用できません。

"#$();[¥]{}

■予想実行時間-指定方法

予想実行時間の指定方法を設定します。

・ 設定範囲

"set" - 「直接指定」 ジョブネットワークのパラメータの値（”時間”パラメータ）をジョブネットワークの予想実行時間とします。

"res" - 「前回実績」 正常終了した最近のジョブネットワークの実行実績から、ジョブネットワーク全体の予想実行時間を算出します。

■予想実行時間-時間

指定方法で直接指定(set)を選択した場合に、時間を入力します。単位によって値の設定範囲が異なります。

・ 設定範囲

0-31536000 "second" - 「秒」

0-525600 "minute" - 「分」

0-8760 "hour" -「時間」

0-365 "day" - 「日」

4.1.11. 条件分岐

種別に「CONDB」(条件分岐)を選択した時に設定できるパラメータは次の通りです。

■条件分岐の各枝の条件値を設定します。条件は以下のフォーマットで分岐の数だけ記述します。最後は必ず'other'で終わります。

・ フォーマット

"'条件1','条件2','other'"

・ 例

"'1','2','3-4','other'"

4.1.12. カレンダ分岐

種別に「CALB」(カレンダ分岐)を選択した時に設定できるパラメータは次の通りです。

■分岐に使用するカレンダ名を設定します。

・ 文字制限

1. 名前の最初の文字はアルファベット、アンダーライン、2バイト文字しか使用できません。

2. スペース、タブ、改行および以下の文字は使用できません。

!"#$%&'()*,./:;<=>?@[¥]^`{|}~

4.1.13. 並列分岐

種別に「PARAB」(並列分岐)を選択した時に設定できるパラメータはありません。

4.1.14. OR分岐

種別に「ORB」(OR分岐)を選択した時に設定できるパラメータはありません。

4.1.15. コンティニュー

種別に「CONT」(コンティニュー)を選択した時に設定できるパラメータは次の通りです。

■ジャンプ先

ジョブネットワークのフロー上の行き先を指定します。行き先には、単位ジョブ／ダイアログ／ERPジョブ／PCジョブ／UCXシングルジョブの名前を指定します。

・ 文字制限

1. 名前の最初の文字はアルファベット、アンダーライン、2バイト文字しか使用できません。

2. スペース、タブ、改行および以下の文字は使用できません。

!"#$%&'()*,/:;<=>?@[¥]^`{|}~

■最大繰り返し回数

繰り返した回数がこの回数を越えるとコンティニューは終了ステータスに設定した状態になります。

・ 設定範囲

1-99999

■終了ステータス

最大繰り返し回数を越えた場合のステータスを指定します。

・ 設定範囲

"estop" - 「エラー停止」

"error" - 「エラー終了」

"done" - 「正常終了」

4.1.16. サブジョブネットワーク待ち合わせ

種別に「WSJNW」(サブジョブネットワーク待ち合わせ)を選択した時に設定できるパラメータは次の通りです。

■待ち合わせ対象

待ち合わせるサブジョブネットワークの名前を記述します。

・ フォーマット

1. 同じ階層構造上のサブジョブネットワーク部品を待ち合わせる場合

   最上位ジョブネットワーク名:サブジョブネットワーク名:...:対象サブジョブネットワーク名

2. 他のジョブネットワークや他ユーザのジョブネットワークを待ち合わせる場合

   :ユーザ名:最上位ジョブネットワーク名:サブジョブネットワーク名:...:対象サブジョブネットワーク名

・ 文字制限

1. 名前の最初の文字はアルファベット、アンダーライン、2バイト文字しか使用できません。
2. スペース、タブ、改行および以下の文字は使用できません。

   !"#$%&'()*,/:;<=>?@[¥]^`{|}~

4.1.17. ジョブ待ち合わせ

種別に「WJOB」(ジョブ待ち合わせ)を選択した時に設定できるパラメータは次の通りです。

■待ち合わせ対象

ジョブ待ち合わせ対象部品の部品名を記述します。

・ フォーマット

1. 同じ階層構造上のジョブネットワーク中の単位ジョブを待ち合わせる場合

   最上位ジョブネットワーク名:サブジョブネットワーク名:...:対象単位ジョブ名

2. 他のジョブネットワーク及び他のユーザのジョブネットワーク中の単位ジョブを待ち合わせる場合

   :ユーザ名:最上位ジョブネットワーク名:サブジョブネットワーク名:...:対象単位ジョブ名

・ 文字制限

1. 名前の最初の文字はアルファベット、アンダーライン、2バイト文字しか使用できません。
2. 空白、タブ、特殊文字および以下の文字は使用できません。

   !"#$%&'()*,/;<=>?@[¥]^`{|}~

4.1.18. ファイル待ち合わせ

種別に「WFILE」(ファイル待ち合わせ)を選択した時に設定できるパラメータは次の通りです。

■他のサーバファイルを待つ-有効/無効

リモートサーバ上のファイルを待ち合わせるかを指定します。

・ 設定範囲

"on" - 「有効」

"off" - 「無効」

■他のサーバファイルを待つ-ホスト名

リモートサーバのホスト名を指定します。

・文字制限

スペース、タブ、半角カタカナ、全角文字、改行および以下の文字は使用できません。

!”#$%&’()*,/:;=<>?@[¥]^`{|}~

■ディレクトリ名

待ち合わせ対象が存在するディレクトリの絶対パス名を入力します。

・文字制限

タブ、改行および以下の文字は使用できません。

!”#$%&’()*,;=<>?[]^`{|}~

■待ち合わせ対象ファイル名またはディレクトリ名

待ち合わせ対象のファイル名またはディレクトリ名を入力します。

・文字制限

タブ、改行および以下の文字は使用できません。

!”#$%&’()*,/:;<=>?[¥]^`{|}~

■一致条件

待ち合わせ対象ファイルに対する一致条件を指定します。待ち合わせ条件を満たすファイルが複数存在する場合、待ち合わせ処理は更新時刻が最も新しいファイルに対して行います。

・設定範囲

"match" - 「一致する」

"contain" - 「を含む」

"begin" - 「から始まる」

■通過条件

待ち合わせを終了する条件を指定します。

・設定範囲

"e" - 「存在する」

"n" - 「存在しない」

"u" - 「更新」

■更新基準時刻

通過条件で更新を指定した場合に有効となります。ここで指定した当日の時間以降にファイルの更新があった場合に通過します。

・フォーマット

①絶対時刻

00:00～23:59

②相対時間

+00:00～+99:59

■タイムアウト

ファイル待ち合わせタイムアウト時間を設定します。

・フォーマット

①絶対時刻

00:00～23:59

②相対時間

+00:00～+99:59

■予想実行時間-指定方法

予想実行時間の指定方法を設定します。

・設定範囲

"set" - 予想実行時間を直接指定します。

"res" - 「前回実績」 正常終了した最近のファイル待ちの実行実績を予想実行時間とします。

■予想実行時間-時間

指定方法で直接指定(set)を選択した場合に、時間を入力します。単位によって値の設定範囲が異なります。

・設定範囲

0-31536000 "second" - 「秒」

0-525600 "minute" - 「分」

0-8760 "hour" -「時間」

0-365 "day" - 「日」

4.1.19. 時刻待ち合わせ

種別に「WTIME」(時刻待ち合わせ)を選択した時に設定できるパラメータは次の通りです。

■日付(何日後)

待ち合せる時刻の日付を設定します。０日後から９日後まで選択することができます。

・設定範囲

0-9

■時刻

待ち合せる時刻を設定します。実行を開始する時刻はジョブネットワークの開始予定時刻から設定された日付の該当する時刻となります。

・フォーマット

①絶対時刻

00:00～23:59

②相対時間

+00:00～+23:59

■未到達警報

時刻待ち合わせ部品で指定した時刻を過ぎても、その時刻待ち部品の実行が開始されていなかった場合に、警報メッセージをイベントログに出力します。

・ 設定範囲

"on" - 「有効」

"off" - 「無効」

4.1.20. イベント送信

種別に「EVTSND」(イベント送信)を選択した時に設定できるパラメータは次の通りです。

■送信先ホスト名

・ 文字制限

1. 最大バイト数は255バイトです。
2. スペース、タブ、改行、半角カタカナ、全角文字、および以下の文字は使用できません。

!"#$%&'(),/:;<=>?@[¥]^`{|}~

■イベントID

任意の送信するイベント識別子（ID）を入力します。

・ 文字制限

1. 最大バイト数は100バイトです。
2. 名前の最初の文字はアルファベット、アンダーライン、2バイト文字しか使用できません。
3. スペース、タブ、改行、半角カタカナ、全角文字、および以下の文字は使用できません。

!"#$%&'(),/:;<=>?@[¥]^`{|}~

■メッセージ

送信先に送るメッセージを入力します。

・ 文字制限

1. 最大バイト数は100バイトです。
2. 名前の最初の文字はアルファベット、アンダーライン、2バイト文字しか使用できません。
3. スペース、タブ、改行、半角カタカナ、全角文字および以下の文字は使用できません。

!"#$%&'(),/:;<=>?@[¥]^`{|}~

■イベント送信範囲指定

単一：同じイベントIDでイベント待ち状態となった部品の内、最初に起動したものに対してイベントを通知します。　すべて：同じイベントIDでイベント待ち状態となっている部品すべてにイベントを通知します。

・設定範囲

"only" - 「単一」

"all" - 「すべて」

■受信確認-確認の有無

onの場合、送信先でイベント受信が行われるまで待ち合わせを行います。指定した期間中に受信されない場合、タイムアウトしエラー終了状態になります。 offの場合、送信先でのイベント受信の有無にかかわらず、待ち合わせを行いません。

・設定範囲

"on" - 「確認を行う」

"off" - 「確認を行わない」

■受信確認-タイムアウト

受信の待ち合わせタイムアウト時間を設定します。　設定なし（空白）の場合は、無限に待ち合わせます。

・フォーマット

①絶対時刻

00:00～23:59

②相対時間

+00:00～+99:59

■イベント有効期間-期間の設定

onの場合、イベントは送信先が起動するまで待ち合わせをします。送信先に該当するイベント受信部品が起動していない場合、指定した時間までイベントの保持を行います。指定してある時間内に該当するイベント受信部品が起動された場合、その時点でイベントの保持を終了します。 offの場合、送信先が起動するまで待ち合わせをせず、送信先でイベントの保持を行いません。

・設定範囲

"on"

"off"

■イベント有効期間-タイムアウト

受信の待ち合わせタイムアウト時間を設定します。

・フォーマット

①絶対時刻

00:00～23:59

②相対時間

+00:00～+99:59

4.1.21. イベント受信

種別に「EVTRCV」(イベント受信)を選択した時に設定できるパラメータは次の通りです。

■正常終了-終了コード

正常終了コードを設定します。

・設定範囲

0-255

■正常終了-条件

正常終了する条件を設定します。

・フォーマット

フォーマットは以下の通りです。条件全体を囲む(")ダブルクォーテーションも入力する必要があります。イベントIDと一致条件は任意の回数、最大5回まで繰り返すことができます。ひとつの条件はかならず1行で書いてください。複数の条件を入力したい場合は、改行(エスケープシーケンスの"¥n"ではなくExcelの改行)を入れて、下記のフォーマットを記述します。条件は最大10件まで記述可能です。

"'<条件名>','<送信元ホスト名>','<イベントID 1>','<一致条件 1>','<イベントID 2>','<一致条件 2>', …"

・設定項目

1. 条件名

条件の名前です。文字制限は次のとおりです。

a. 最大40バイトです。

b. スペース、タブ、改行および以下の文字は使用できません。

!"#$%&'()*,/:;<=>?@[¥]^`{|}~

2. 送信元ホスト名

イベント送信元のホスト名を入力します。文字制限は以下のとおりです。

a. 最大バイト数は255バイトです。

b. スペース、タブ、改行、半角カタカナ、全角文字および以下の文字は使用できません。

!"#$%&'()*,/:;<=>?@[¥]^`{|}~

3. イベントID

任意の受信するイベントの識別子（ID）を入力します。文字制限は以下のとおりです。

a. 最大バイト数は100バイトです。

b. 最初の文字はアルファベット、アンダーライン、2バイト文字しか使用できません。

c. スペース、タブ、改行、半角カタカナ、全角文字、および以下の文字は使用できません。

!"#$%&'(),/:;<=>?@[¥]^`{|}~

4. 一致条件

IDの合致条件としては"0"「から始まる」, "1"「を含む」, "2"「一致する」を選択することができます。

・条件の例

条件名が「condition1」、送信元ホスト名が「test_host」でイベントIDが「id_01」でその一致条件が「から始まる」、もう一つのイベントIDが「id_02」でその一致条件が「を含む」の場合。

"'condition1','test_host','id_01','0',,'id_02','1'"

■異常終了-終了コード

異常終了コードを設定します。

・設定範囲

0-255

■異常終了-条件

異常終了する条件を設定します。

・フォーマット

フォーマットは以下の通りです。条件全体を囲む(")ダブルクォーテーションも入力する必要があります。イベントIDと一致条件は任意の回数、最大5回まで繰り返すことができます。ひとつの条件はかならず1行で書いてください。複数の条件を入力したい場合は、改行(エスケープシーケンスの"¥n"ではなく、Excelの改行)を入れて、下記のフォーマットを記述します。条件は最大10件まで記述可能です。

"'<条件名>','<送信元ホスト名>','<イベントID 1>','<一致条件 1>','<イベントID 2>','<一致条件 2>', …"

・設定項目

1. 条件名

条件の名前です。文字制限は次のとおりです。

a. 最大40バイトです。

b. スペース、タブ、改行および以下の文字は使用できません。

!"#$%&'()*,/:;<=>?@[¥]^`{|}~

2. 送信元ホスト名

イベント送信元のホスト名を入力します。文字制限は以下のとおりです。

a. 最大バイト数は255バイトです。

b. スペース、タブ、改行、半角カタカナ、全角文字および以下の文字は使用できません。

!"#$%&'()*,/:;<=>?@[¥]^`{|}~

3. イベントID

任意の受信するイベントの識別子（ID）を入力します。文字制限は以下のとおりです。

a. 最大バイト数は100バイトです。

b. 最初の文字はアルファベット、アンダーライン、2バイト文字しか使用できません。

c. スペース、タブ、改行、半角カタカナ、全角文字、および以下の文字は使用できません。

!"#$%&'(),/:;<=>?@[¥]^`{|}~

4. 一致条件

IDの合致条件としては"0"「から始まる」, "1"「を含む」, "2"「一致する」を選択することができます。

・条件の例

条件名が「condition1」、送信元ホスト名が「test_host」でイベントIDが「id_01」でその一致条件が「から始まる」、もう一つのイベントIDが「id_02」でその一致条件が「を含む」の場合。

"'condition1','test_host','id_01','0',,'id_02','1'"

■受信タイムアウト-タイムアウトの有無

onの場合、イベントを受け付けるまでの待ち合わせをします。設定してある期間受信待ち合わせを行い受信できた場合には、正常終了状態になります。指定した期間中にイベントが受信できない場合、タイムアウトしエラー終了状態になります。 offの場合、イベントの即時受信を行います。受信できた場合も受信できなかった場合も正常終了状態になります。

・設定範囲

"on"

"off"

■受信タイムアウト-タイムアウト

待ち合わせするときのタイムアウト時間を設定します。設定なし（空白）の場合は、無限に待ち合わせます。

・設定範囲

①絶対時刻

00:00～23:59

②相対時間

+00:00～+23:59

4.2. スケジュールの作成(SCHEDシート)

「schedシート」を使用することでスケジュールを作成することができます。「schedシート」を選択すると図4.2「schedシート」のようなシートが表示されます。

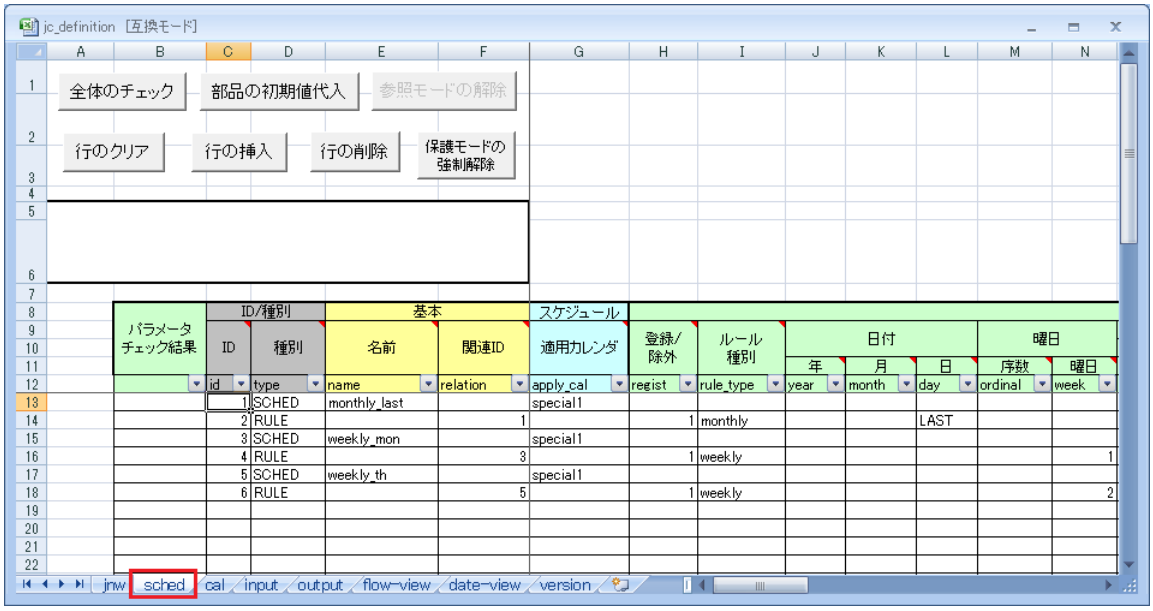


図4.2 schedシート

4.2.1. IDと種別

スケジュールを作成するためにはスケジュールとルールを一意に識別するためのIDとスケジュールかルールを表す種別を決定する必要があります。IDと種別で設定できる値は次の通りです。

■ID

シート内で一意なIDを指定します。

・設定範囲

0-999999

■種別

スケジュールかルールを表す種別を指定します。

項目名	説明
SCHED	スケジュール
RULE	ルール

4.2.2. 基本設定と適用カレンダ

設定の基本項目として「名前」と「関連ID」があります。「名前」はスケジュールの名前を決定するために使用します。「関連ID」は、ルールがどのスケジュールに所属するかを決定するために使用します。また、スケジュールに適用するカレンダを「適用カレンダ」で設定することができます。それぞれの設定可能なパラメータは次の通りです。

■基本-名前

スケジュールの名前を設定します。

・文字制限

1. 名前の最初の文字はアルファベット、アンダーライン、2バイト文字しか使用できません。

2. スペース、タブ、改行および以下の文字は使用できません。

!"#$%&'()*,/:;<=>?@[¥]^`{|}~

■基本-関連ID

種別がルールの場合、関係付けるスケジュールのIDを指定します。

・設定範囲

0-999999

■スケジュール-適用カレンダ

適用する稼働日カレンダの名前を指定します。

・文字制限

1. 名前の最初の文字はアルファベット、アンダーライン、2バイト文字しか使用できません。

2. スペース、タブ、改行および以下の文字は使用できません。

!"#$%&'()*,/:;<=>?@[¥]^`{|}~

4.2.3. ルールの作成

種別に「RULE」(ルール)を選択した時に設定できるパラメータは次の通りです。

■登録/除外

登録：指定したルールの日時をジョブ実行予定日としてスケジュールに追加することを意味します。

除外：指定したルールの日時をジョブ実行しない日としてスケジュールから削除することを意味します。

・設定範囲

1 - 「登録」

0 - 「除外」

■ルール種別

ルールの種別を設定します。

・種別

毎日 - 毎日実行するルールです。

毎週 - 毎週実行するルールです。

毎月(日付) - 毎月、日付指定で実行するルールです。

毎月(曜日) - 毎月、曜日指定で実行するルールです。

毎年(日付) - 毎年、日付指定で実行するルールです。

毎年(曜日) - 毎年、曜日指定で実行するルールです。

特定日 - 指定した日付に実行するルールです。

特殊 - 月初週末に実行するルールです。

・設定範囲

"daily" - 「毎日」

"weekly" - 「毎週」

"monthly" - 「毎月(日付)」

"thmonthly" - 「毎月(曜日)」

"yearly" - 「毎年(日付)」

"thyearly" - 「毎年(曜日)」

"special " - 「特定日」

"extra" - 「特殊」

■日付-年

年を指定します。

・設定範囲

1997-2037

■日付-月

月を指定します。

・設定範囲

1-12

■日付-日

日を指定します。毎月(日付)　ルールと、毎年(日付)ルールの場合は月末を指定する"LAST"が有効です。

・設定範囲

1-31

"LAST" - (monthlyとyearlyのみ)

■曜日-序数

第n(1,2,3,4,5,最後)週かを指定します。

・設定範囲

1-5

"LAST"

■曜日-曜日

曜日を指定します。

・ 設定範囲

0-6 - 0から日曜日-土曜日

■時刻-開始時刻-時

開始時間を指定します

・ 設定範囲

0-35

■時刻-開始時刻-分

開始分を指定します

・ 設定範囲

0-59

■時刻-周期

実行する周期を指定します。

・ 設定範囲

1-1440 -「分」

■時刻-終了時刻-時

終了時間を指定します

・ 設定範囲

0-35

■時刻-終了時刻-分

終了分を指定します

・ 設定範囲

0-59

■休止日

指定された実行日が稼働日カレンダで定義されている休止日にあたる場合に、実行予定日を自動的にシフトするかどうかを指定します。

・ 設定範囲

"BEFORE" - 「前シフト」

"AFTER" - 「後シフト」

"NONE" - 「対象外」

■相対

もとの日から稼働日だけを数えて指定日数分ずらした日を指定します。もとの日から未来方向にずらすには＋(プラス)、過去方向にずらすには－(マイナス)の日数を指定します。

・設定範囲

-31 - 31

■特殊

「特殊ルール」を指定した場合、月初週末を選択する必要があります。

・設定範囲

"firstwe"

■適用期間-開始日-年

適用開始「年」を指定します。

・設定範囲

1997-2037

■適用期間-開始日-月

適用開始「月」を指定します。

・設定範囲

1-12

■適用期間-開始日-日

適用開始「日」を指定します。

・設定範囲

1-31

■適用期間-終了日-年

適用終了「年」を指定します。

・設定範囲

1997-2037

■適用期間-終了日-月

適用終了「月」を指定します。

・設定範囲

1-12

■適用期間-終了日-日

適用終了「日」を指定します。

・設定範囲

1-31

4.3. カレンダの作成(CALシート)

「calシート」を使用することでカレンダを作成することができます。「calシート」を選択すると図4.3「calシート」のようなシートが表示されます。

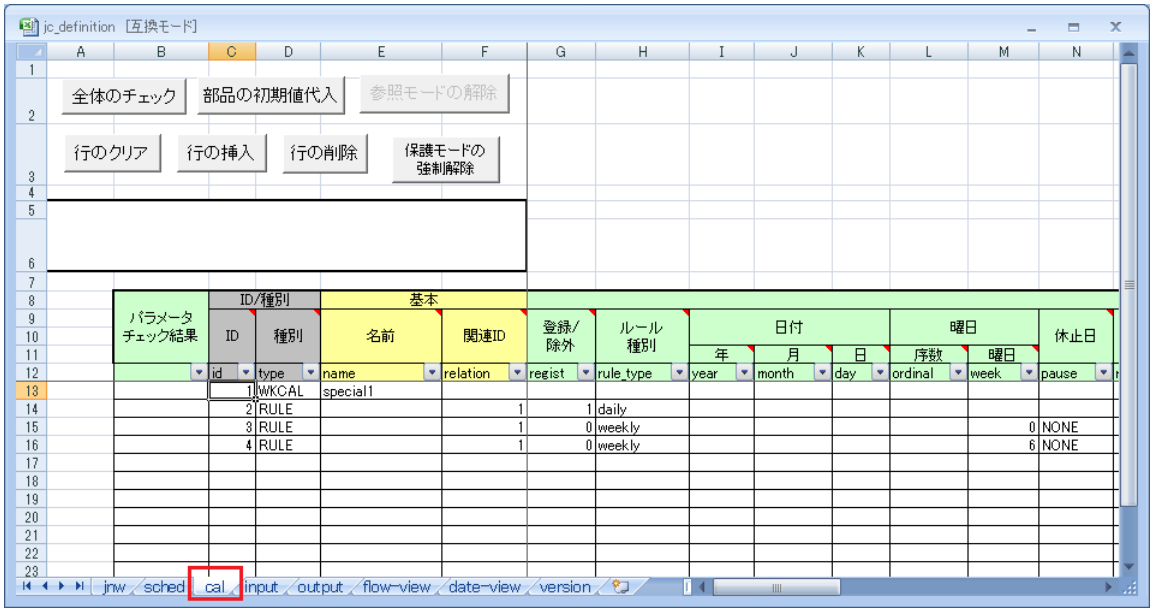


図4.3 calシート

4.3.1. IDと種別

カレンダを作成するためにはカレンダとルールを一意に識別するためのIDとカレンダかルールを表す種別を決定する必要があります。IDと種別で設定できる値は次の通りです。

■ID

シート内で一意なIDを指定します。

・設定範囲

0-999999

■種別

カレンダかルールを表す種別を指定します。

項目名	説明
WKCAL	稼動日カレンダ
RULE	ルール

4.3.2. 基本設定

設定の基本項目として「名前」と「関連ID」があります。「名前」はカレンダの名前を決定するために使用します。「関連ID」は、ルールがどのカレンダに所属するかを決定するために使用します。それぞれの設定可能なパラメータは次の通りです。

■基本-名前

カレンダの名前を設定します。

・文字制限

1. 名前の最初の文字はアルファベット、アンダーライン、2バイト文字しか使用できません。

2. スペース、タブ、改行および以下の文字は使用できません。

!"#$%&'()*,/:;<=>?@[¥]^`{|}~

■基本-関連ID

種別がルールの場合、関係付ける稼動日カレンダのIDを指定します。

・設定範囲

0-999999

4.3.3. ルールの作成

種別に「RULE」(ルール)を選択した時に設定できるパラメータは次の通りです。

■登録/除外

登録：指定したルールの日時をジョブ稼働日としてカレンダに追加することを意味します。

除外：指定したルールの日時を非稼働日としてカレンダから削除することを意味します。

・設定範囲

1 - 「登録」

0 - 「除外」

■ルール種別

ルールの種別を設定します。

・種別

毎日 - 毎日実行するルールです。

毎週 - 毎週実行するルールです。

毎月(日付) - 毎月、日付指定で実行するルールです。

毎月(曜日) - 毎月、曜日指定で実行するルールです。

毎年(日付) - 毎年、日付指定で実行するルールです。

毎年(曜日) - 毎年、曜日指定で実行するルールです。

特定日 - 指定した日付に実行するルールです。

特殊 - 月初週末に実行するルールです。

・設定範囲

"daily" - 「毎日」

"weekly" - 「毎週」

"monthly" - 「毎月(日付)」

"thmonthly" - 「毎月(曜日)」

"yearly" - 「毎年(日付)」

"thyearly" - 「毎年(曜日)」

"special " - 「特定日」

"extra" - 「特殊」

■日付-年

年を指定します。

・設定範囲

1997-2037

■日付-月

月を指定します。

・設定範囲

1-12

■日付-日

日を指定します。毎月(日付)　ルールと、毎年(日付)ルールの場合は月末を指定する"LAST"が有効です。

・設定範囲

1-31

"LAST" - (monthlyとyearlyのみ)

■曜日-序数

第n(1,2,3,4,5,最後)週かを指定します。

・設定範囲

1-5

"LAST"

■曜日-曜日

曜日を指定します。

・設定範囲

0-6 - 0から日曜日-土曜日

■休止日

指定された実行日が稼働日カレンダで定義されている休止日にあたる場合に、実行予定日を自動的にシフトするかどうかを指定します。

・設定範囲

"BEFORE" - 「前シフト」

"AFTER" - 「後シフト」

"NONE" - 「対象外」

■相対

もとの日から稼働日だけを数えて指定日数分ずらした日を指定します。もとの日から未来方向にずらすには＋(プラス)、過去方向にずらすには－(マイナス)の日数を指定します。

・設定範囲

-31 - 31

■特殊

「特殊ルール」を指定した場合、月初週末を選択する必要があります。

・設定範囲

"firstwe"

■適用期間-開始日-年

適用開始「年」を指定します。

・設定範囲

1997-2037

■適用期間-開始日-月

適用開始「月」を指定します。

・設定範囲

1-12

■適用期間-開始日-日

適用開始「日」を指定します。

・設定範囲

1-31

■適用期間-終了日-年

適用終了「年」を指定します。

・設定範囲

1997-2037

■適用期間-終了日-月

適用終了「月」を指定します。

・設定範囲

1-12

■適用期間-終了日-日

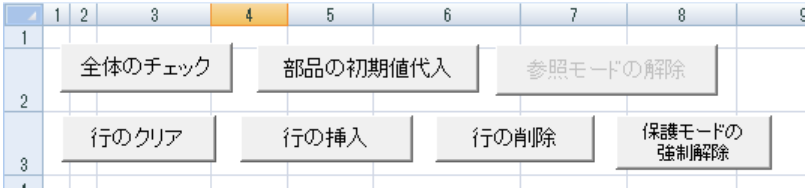
適用終了「日」を指定します。

・設定範囲

1-31

4.4. ジョブネットワーク・スケジュール・カレンダシートの共通操作

ジョブネットワーク・スケジュール・カレンダのシート共通で使用可能な操作として次の7種類のボタンが用意されています。



■全体のチェック

「パラメータチェック」と「依存関係チェック」の二種類のチェックを行い、設定した定義が正しいか判定を行います。定義をJPFファイルに出力する場合やフローを描画する場合には必ず本操作が必要になります。

1. パラメータチェック

   シート上に定義されたすべての部品に対して適切な値が設定されているかチェックを行います。

   必須項目に値が設定されていない場合や、設定した値に不適切な値が設定されている場合はチェックエラーとなり、該当セルが赤く表示されます。また、各行毎の結果として部品の結果が「パラメータチェック結果」に表示されます。パラメータが適切に設定されている場合は、〇が表示されます。一つ以上のエラーがあると×が表示されます。×となった部品は適切な値を設定しなおす必要があります。

   パラメータチェックの結果として一つ以上がエラーとなった場合は、ボタン下のウィンドウ内にエラーとなった部品数が表示されます。なお、パラメータチェックでエラーとなった場合は依存関係チェックは行なわれません。

2. 依存関係チェック

   シート上に定義された各部品の順序関係や分岐関係が正しいか、また一つのジョブネットワーク内に複数の同名の部品が存在しないかチェックを行います。

   以下のような場合に依存関係チェックではエラーとなります。

   ・ フローがループするような場合

   ・ 複数の部品から先行部品として分岐部品以外の部品が指定された場合

   ・ 分岐IDに分岐数を越える数を指定した場合

   ・ 分岐部品以外の部品を先行部品に指定しているにもかかわらず、分岐IDを指定した場合

   ・ 同じジョブネットワーク内に複数の同名の部品が存在する場合

   依存関係チェックでエラーとなった場合は、ボタン下のウィンドウ内にエラー理由が表示されます。表示された理由を見て部品の関連や名前を修正する必要があります。

パラメータチェックと依存関係チェックでエラーがない場合、参照モードに移行することができます。参照モードとは、定義を参照するだけのモードとなり、定義を変更することはできません。参照モードのときのみフローシートでの「フローの生成」やデータビューシートでの「ルールの確認」、outputシートでの「JPFファイルの出力」が可能となります。

参照モードを解除する場合は、「参照モードの解除」を行う必要があります。

オートフィルタを使用して行のフィルタを行ったまま全体のチェックを行うと強制的にフィルタを解除します。

■部品の初期値代入

選択している行の部品のパラメータ全てに対して初期値を代入します。

すでに値が設定されているセルに対しても初期値に設定しなおしますので注意してください。

■参照モードの解除

全体のチェックを行い参照モードに移行した後で、定義モードに移行するために用います。現在のモードが参照モードの時のみ使用することができます。

■行のクリア

選択中の行の内容をクリアします。部品の定義が不要になった場合に使用することで定義を削除することができます。なお、「行のクリア」では行自体は削除されません。削除する場合には「行の削除」を使用します。

■行の挿入

選択中の行に新たに定義可能な行を挿入します。

■行の削除

選択中の行を削除します。「行のクリア」と異なり選択中の行自体が削除され、上方向に詰められます。

■保護モードの強制解除/保護モードに移行

Definiton Helperでは編集不可の領域に対してユーザが誤入力するのを防ぐため、Excelの機能を用いてユーザが入力する部分以外を保護していますが、保護モードのままでは文字列の置換を行うことができません。文字列置換を行う場合は、「保護モードの強制解除」を行なってシートの保護を解除してください。なお、置換操作など保護モード解除中の操作が終りましたら誤入力を防ぐために「保護モードに移行」を使用して保護モードに戻してください。

保護モードを解除したまま定義を行い、本来保護されている箇所へ誤入力を行ったり、行や列を削除してしまいますと誤動作の原因となります。保護モードの解除は必ず置換操作など保護解除しなければ行なえない操作を行う期間のみ解除するようにしてください。また、下記の操作は誤動作の原因となりますので絶対に行わないようにしてください。

・ 行・列の削除

・ ボタンの削除

・ 初期に記入されている文字列やコメントの編集

・ パラメータチェック結果の編集

・ セルの書式設定の変更

4.5. viewシート

「jnwシート」や「schedシート」、「calシート」を利用して作成した定義のジョブネットワークフローやスケジュールを確認することができます。ジョブネットワークフローを確認する場合は「flow-viewシート」を使用します。スケジュールの確認をする場合は「date-viewシート」を使用します。

4.5.1. flow-viewシート

「flow-viewシート」では、「jnwシート」で定義したJNWのフローを確認することができます。

「flow-viewシート」を選択すると図4.4「flow-viewシート」のようなシートが表示されます。

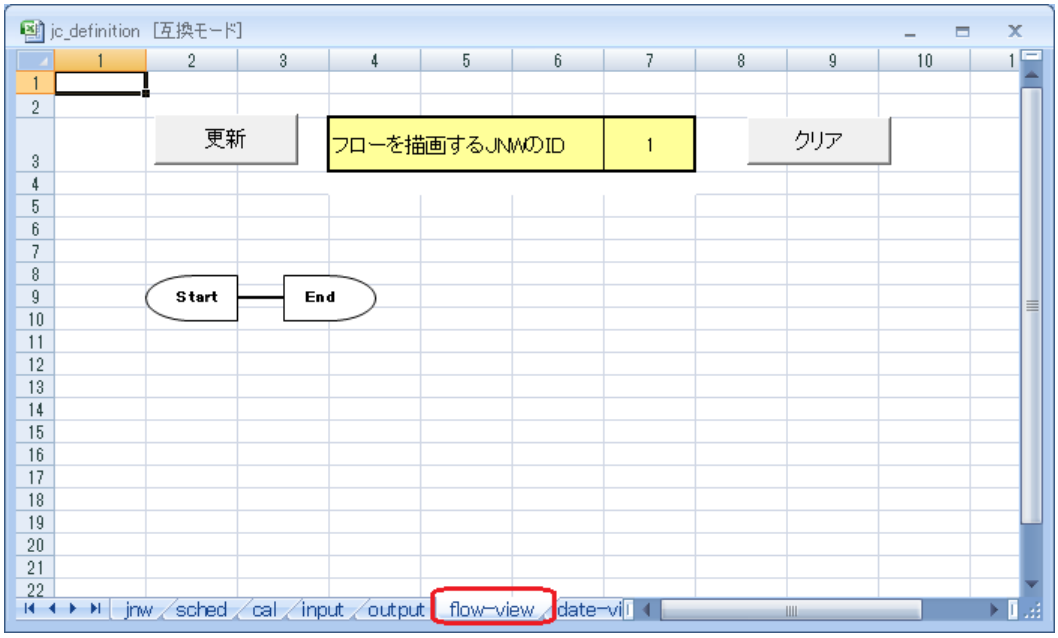


図4.4 flow-viewシート

flow-viewシートでは以下の二つの操作ができます。

■更新

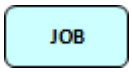
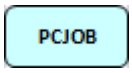
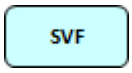
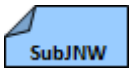
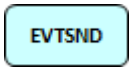
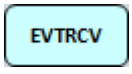
「フローを描画するJNWのID」に記入したIDのジョブネットワークフローを描画します。フローを描画するためには「jnwシート」で「全体のチェック」を行って参照モードに移行しておく必要があります。

■クリア

描画したフローをクリアします。

フローで使用されるアイコンは次の表の通りです。

アイコン	説明
Start	ジョブネットワークの開始点
End	ジョブネットワークの終了点

アイコン	説明
	部品のID
	単位ジョブ
	ERPジョブ
	BIジョブ
	PCジョブ
	UCXSingleジョブ
	サブジョブネットワーク
	ダイアログ
	条件分岐
	カレンダ分岐
	並列分岐
	OR分岐
	コンティニュー
	サブジョブネットワーク待ち合わせ
	単位ジョブ待ち合わせ
	ファイル待ち合わせ
	時刻待ち合わせ
	イベント送信
	イベント受信

4.5.2. date-viewシート

「date-viewシート」では、「schedシート」や「calシート」で定義したスケジュール、稼動日を確認することができます。

「date-view」シートを選択すると図4.5「date-viewシート」のようなシートが表示されます。

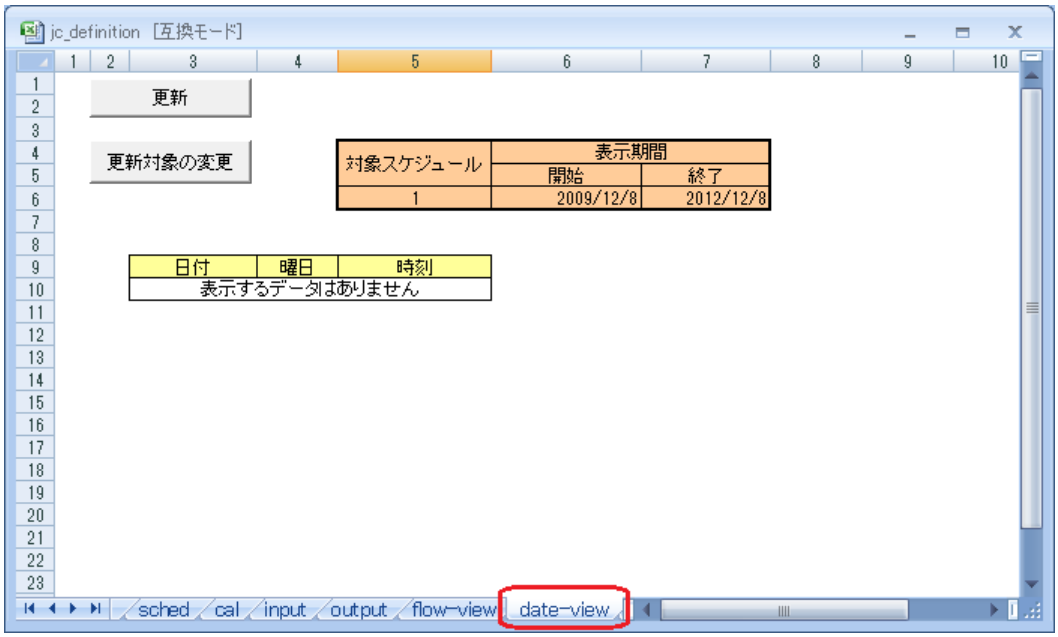


図4.5 date-viewシート

「date-viewシート」では以下の二つの操作ができます。

■「更新対象の変更」

スケジュールまたはカレンダの対象の選択と表示期間の設定を行います。「更新対象の変更」ボタンを押すと次のダイアログが開きます。

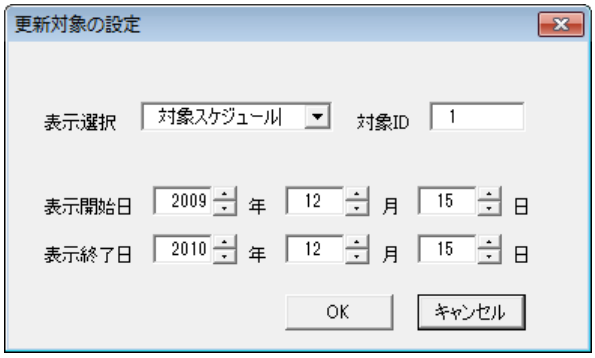


図4.6 更新対象の設定ダイアログ

更新対象の設定ダイアログでは次の設定ができます。

・ 表示選択

表示する対象を選択します。スケジュールを表示する場合は「対象スケジュール」を選択し、カレンダを表示する場合は「対象カレンダ」を選択します。

・ 対象ID

対象となるスケジュールまたはカレンダのIDを入力します。

・ 表示開始日

表示するスケジュールの開始日を入力します。

・ 表示終了日

表示するスケジュールの終了日を入力します。

■更新

対象のスケジュールまたは稼動日を表示期間に従って表示します。更新を行うためには「schedシート」と「calシート」共に「全体のチェック」を行って参照モードに移行しておく必要があります。

4.6. inputシート

「inputシート」ではCL/Winを利用してダウンロードした定義ファイル(JPF形式)や以前に作成した定義ファイルを読み込むことができます。

「inputシート」を選択すると図4.7「inputシート」のようなシートが表示されます。

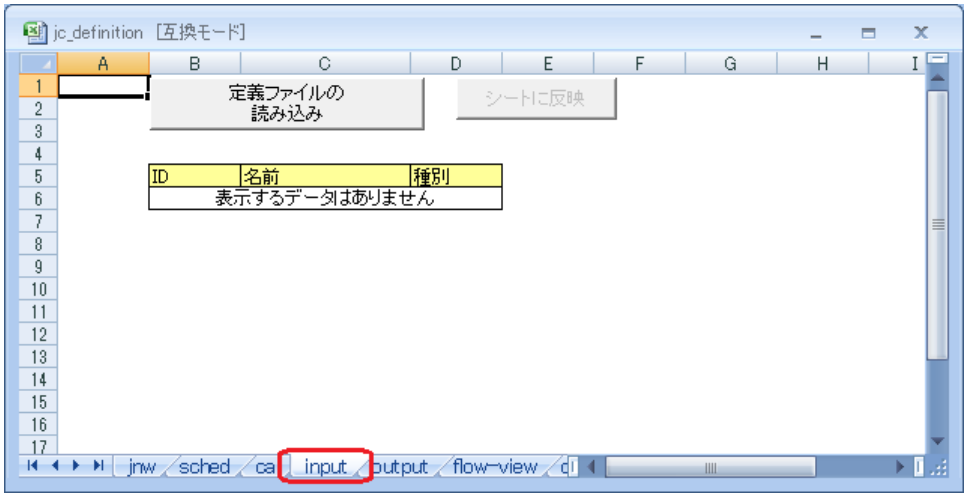


図4.7 inputシート

「inputシート」では次の二つの操作ができます。

■定義ファイルの読み込み

CL/Winでダウンロードした定義ファイルや以前に作成した定義ファイルを読み込むことができます。

「定義ファイルの読み込み」ボタンを押すと次のダイアログが開きますので、読みこませるJPFファイルを選択して「開く」を押します。

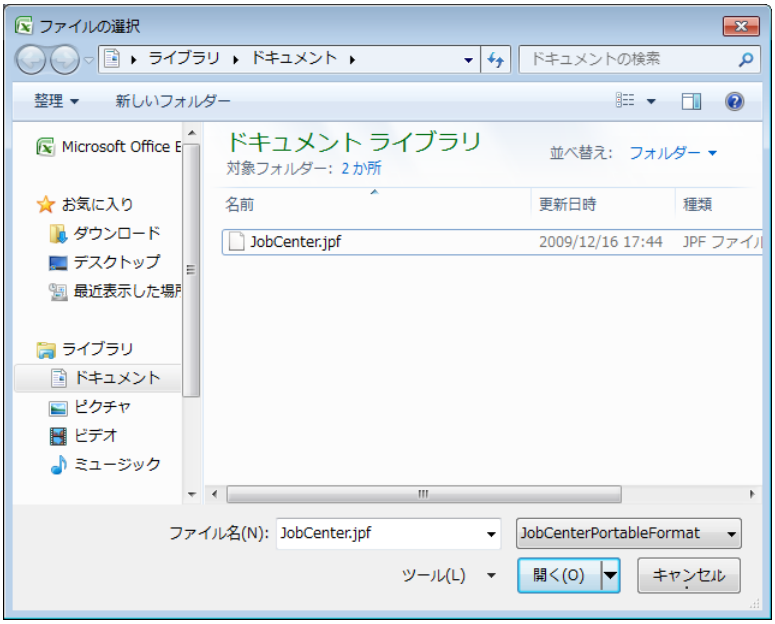


図4.8 JPFファイルの選択ダイアログ

定義ファイルの読み込みに成功すると表が更新されます。表に表示される内容は次の通りです。

列名	説明
ID	各シート上で定義したID
名前	IDに対応するジョブネットワーク名、スケジュール名、またはカレンダ名
種別	JNW、SCHED、WKCALのいずれか

■シートに反映

「定義ファイルの読み込み」で読み込んだ定義ファイルの内容を「jnwシート」、「schedシート」、「calシート」それぞれに反映します。「シートに反映」ボタンを押すと次のダイアログが表示されますので、反映を行う場合は「はい」を、キャンセルする場合は「いいえ」を押します。

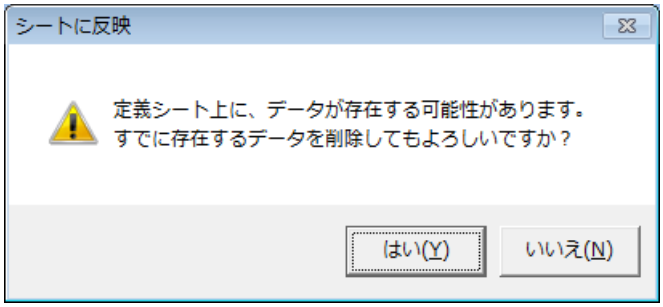


図4.9 シートに反映ダイアログ

反映を行うとそれまでにシートに入力していた内容が破棄されます。

4.7. outputシート

「outputシート」では定義ファイル(JPF形式)を出力することができます。出力した定義ファイルはCL/Winを利用してアップロードをすることができます。

「outputシート」を選択すると図4.10「outputシート」のようなシートが表示されます。

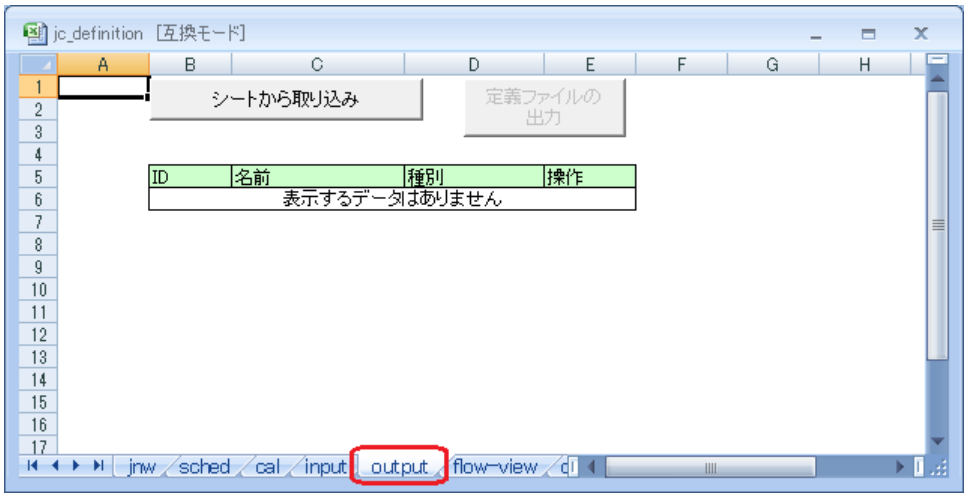


図4.10 outputシート

「outputシート」では次の「シートから取り込み」、「定義ファイルの出力」操作および各定義に対する操作を決定することができます。

■シートから取り込み

作成したジョブネットワーク、スケジュール、カレンダ定義をoutputシートに取り込むことができます。取り込みが終了すると次のような表を出力します。

図4.11 シートから取り込み後の一覧

シートから取り込みに成功すると表が更新されます。表に表示される内容は次の通りです。

列名	説明
ID	各シート上で定義したID

列名	説明
名前	IDに対応するジョブネットワーク名、スケジュール名、またはカレンダ名
種別	JNW、SCHED、WKCALのいずれか
操作	update, create, delete, ignoreのいずれかから選択します。デフォルトはupdateになっています。それぞれの操作の意味は次の通りです。 ・ update アップロード時に定義をExcelで定義した内容に更新します。 ・ create アップロード時にExcelで定義した内容を新規作成します。すでに定義が存在する場合は失敗となります。 ・ delete アップロード時にサーバ側に存在する定義を削除します。サーバ上に定義が存在しない場合は失敗となります。 ・ ignore アップロード時に本定義に対して何も操作を行いません。確認のためにダウンロードしたジョブネットワークで更新などの操作を行いたくないような場合に有用です。

「シートから取り込み」を行うためには、「jnwシート」、「schedシート」、「calシート」を参照モードにしておく必要があります。

■定義ファイルの出力

シートから取り込んだ定義をJPFファイルに出力します。「定義ファイルの出力」を押すと次のようなダイアログが開きますので、ファイルを保存したいフォルダおよびファイル名を入力して「保存」を押してください。

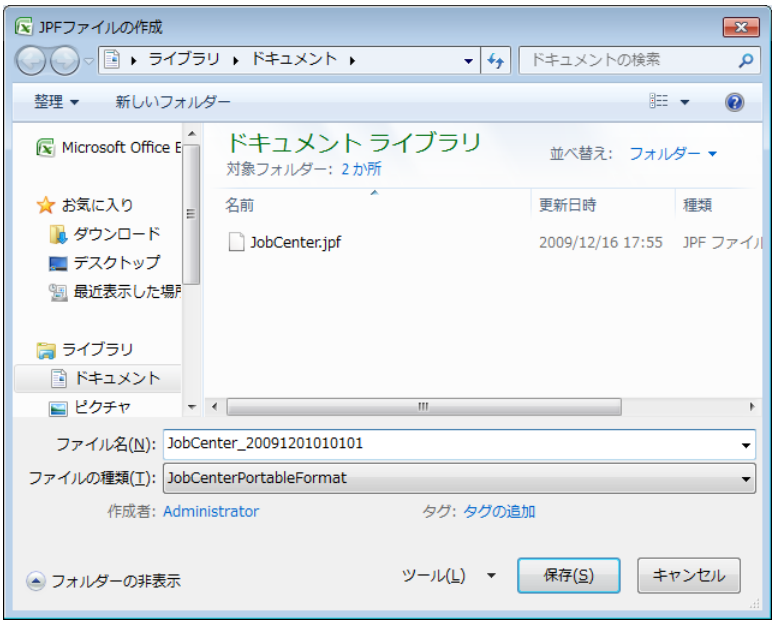


図4.12 JPFファイルの作成

4.8. アップロード・ダウンロード機能

CL/Winを用いてExcelで作成した定義ファイル(JPFファイル)をサーバにアップロードして定義を作成・更新・削除を行ったり、サーバから定義ファイル(JPFファイル)をダウンロードすることで、Excelを用いて定義の編集をすることができます。また、アップロードを行う前にJPFファイルに定義されている内容をチェックしてアップロード可能かどうか検査することもできます。

4.8.1. アップロード

JPFファイルをサーバ上にアップロードしてジョブネットワークやスケジュール、カレンダ定義の作成・更新・削除を行うことができます。CL/Winでアップロードを行うためには[ファイル(F)]-[Definition Helper]-[アップロード(U)]を選択します。

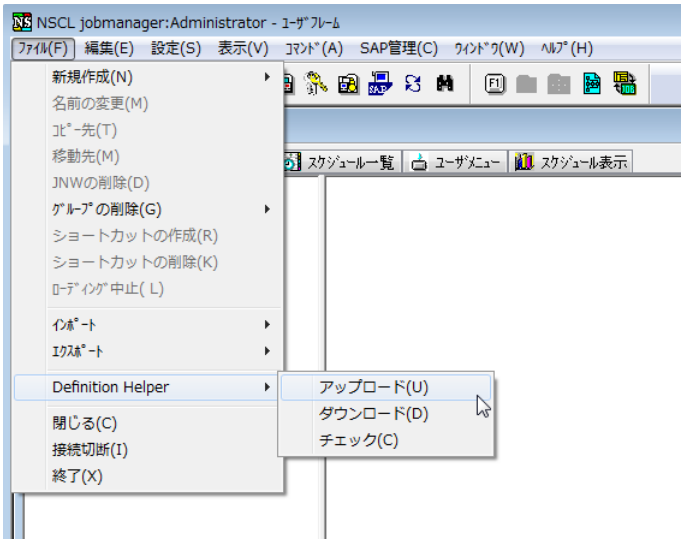


図4.13 CL/Winのアップロード機能

アップロードを行う場合はファイルの選択画面でアップロード対象となるJPFファイルを選択します。

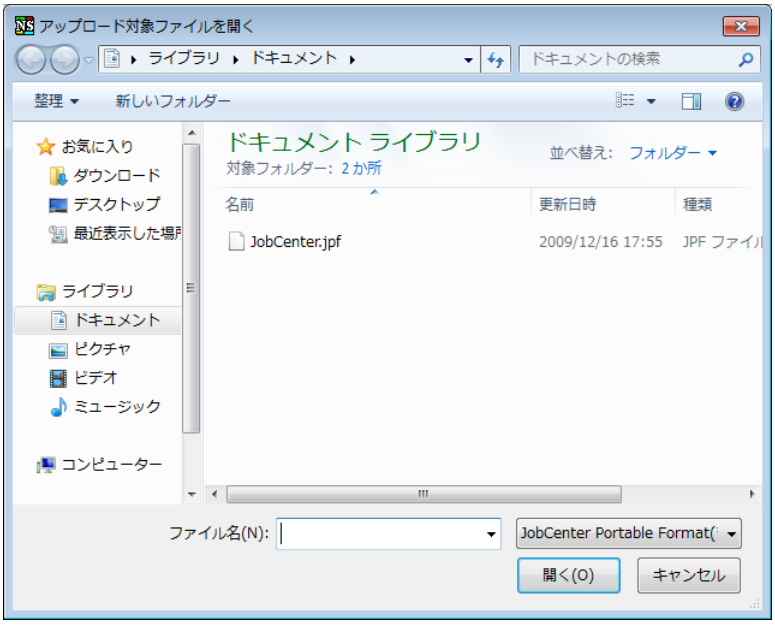


図4.14 アップロードファイルの選択ダイアログ

アップロードが完了すると次のような成功画面が表示されます。

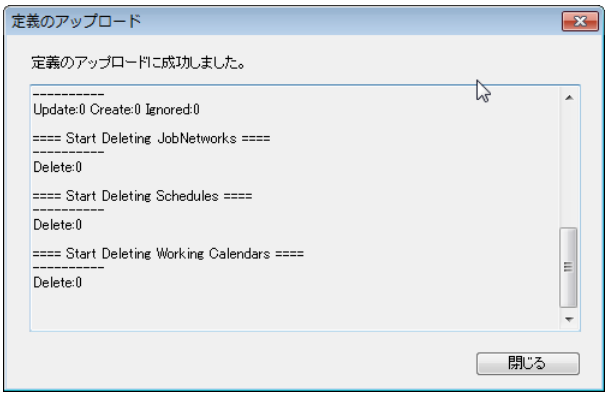


図4.15 定義のアップロード成功ダイアログ

アップロード完了画面では以下のような情報が表示されます。

```
アップロードするファイルを準備しています。
ファイルをアップロードしています。
ファイルのアップロードが完了しました。

==== Start Dependency check ====
----------
Dependency check is successed.

==== Start Updating JobNetworks ====
Create Success  "月次業務1"
Create Success  "月次業務2"
Create Success  "日次業務1"
----------
Update:0 Create:3 Ignored:0

==== Start Updating Schedules ====
Create Success  "日次スケジュール"
Create Success  "特殊処理"
Create Success  "月次スケジュール"
----------
Update:0 Create:3 Ignored:0

==== Start Updating Working Calendars ====
----------
Update:0 Create:0 Ignored:0

==== Start Deleting JobNetworks ====
----------
Delete:0

==== Start Deleting Schedules ====
----------
Delete:0

==== Start Deleting Working Calendars ====
----------
Delete:0
```

表示されているそれぞれの内容の意味は次の通りです。

表示名	説明
Dependency check	依存関係のチェック結果です。チェックの詳細に関しては「チェック」を参照してください。
Updating JobNetworks	ジョブネットワーク定義の更新(Update)に成功した数、作成(Create)に成功した数および無視(Ignore)が指定された数が表示されます。
Updating Schedules	スケジュール定義の更新(Update)に成功した数、作成(Create)に成功した数および無視(Ignore)が指定された数が表示されます。
Updating Working Calendars	カレンダ定義の更新(Update)に成功した数、作成(Create)に成功した数および無視(Ignore)が指定された数が表示されます。
Deleting JobNetworks	ジョブネットワーク定義の削除を行った数が表示されます。
Deleting Schedules	スケジュール定義の削除を行った数が表示されます。
Deleting Working Calendars	カレンダ定義の削除を行った数が表示されます。

カレンダのアップロードはJobCenter管理者のみが可能です。一般ユーザでカレンダを含むJPFファイルをアップロードした場合は、カレンダに関する定義は無視されます。カレンダのアップロードを無視した場合は次のようなメッセージが出力されます。

```
Warning: You are not JobCenter Manager. All working calendars are ignored.
```

注記

アップロードした定義数が多い場合は一部のジョブネットワーク名やスケジュール名、カレンダ名のみが表示されます。残りの定義名については省略されて統計情報として成功した数だけが表示されます。

4.8.2. ダウンロード

JPFファイルをサーバ上からダウンロードしてExcel上でジョブネットワークやスケジュール、カレンダ定義の編集を行うことができます。CL/Winでダウンロードを行うためには[ファイル(F)]-[Definition Helper]-[ダウンロード(D)]を選択します。

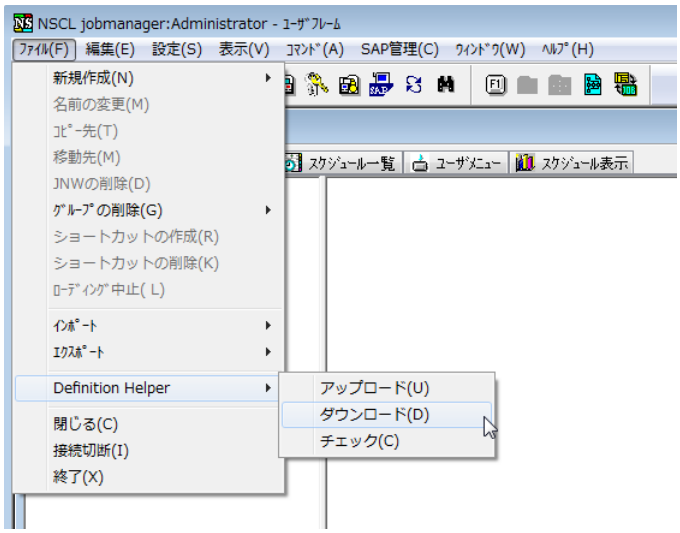


図4.16 CL/Winのダウンロード機能

ダウンロードを行う場合は定義のダウンロード画面でダウンロード対象となる定義の種類を選択します。ダウンロード可能な定義はジョブネットワーク、スケジュール、カレンダから選択します。

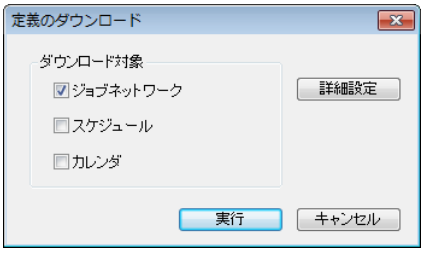


図4.17 ダウンロードファイルの選択ダイアログ

カレンダのダウンロードはJobCenter管理者のみ可能です。

ジョブネットワークをダウンロードする場合は、グループ単位でのダウンロードも可能です。グループ単位でダウンロードを行う場合は、「詳細設定」ボタンを押して、次のダイアログで「グループを指定してダウンロードする」にチェックを入れてグループを選択します。グループのパス情報は指定されるグループのフルパスにも表示されます。

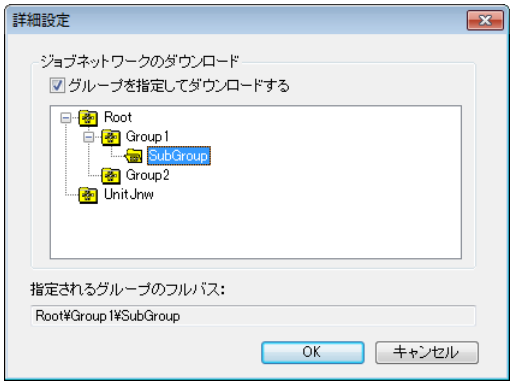


図4.18 ジョブネットワークのグループ指定ダイアログ

ダウンロードが完了すると次のような成功画面が表示されます。

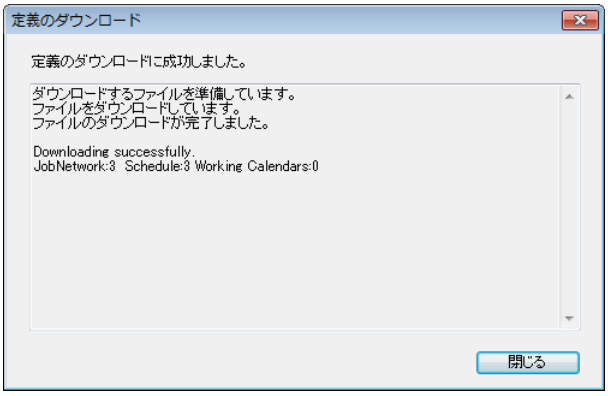


図4.19 定義のダウンロード成功ダイアログ

ダウンロード完了画面では以下のようにダウンロードに成功した定義数の情報が表示されます。

```
ダウンロードするファイルを準備しています。
ファイルをダウンロードしています。
ファイルのダウンロードが完了しました。

Downloading successfully.
JobNetwork:3  Schedule:3 Working Calendars:0
```

4.8.3. チェック

JPFファイルをサーバ上にアップロードする前に定義の依存関係チェックを行うことができます。
依存関係チェックでは次の場合にエラーとなります。

■ジョブネットワークが所属するグループがアップロード先のMG上に存在しない

■ジョブネットワークのパラメータまたは単位ジョブのパラメータのキュー名に設定されているキューがアップロード先のMG上に存在しない

■ジョブネットワーク中にサブジョブネットワークが配置されているが、そのサブジョブネットワーク本体が、JPFファイル中に定義されておらず、かつアップロード先のMG上にも存在していない

■ジョブネットワーク中にカレンダ分岐が配置されているが、そのカレンダ分岐で指定されたスケジュールがJPFファイル中に定義されておらず、かつアップロード先のMG上にも存在していない

■ジョブネットワークにスケジュールを関連付けているが、そのスケジュールがJPFファイル中に定義されておらず、かつアップロード先のMG上にも存在していない

■スケジュールにカレンダを関連付けているが、そのカレンダがJPFファイル中に定義されておらず、かつアップロード先のMG上にも存在していない

CL/Winでチェックを行うためには[ファイル(F)]-[Definition Helper]-[チェック(C)]を選択します。

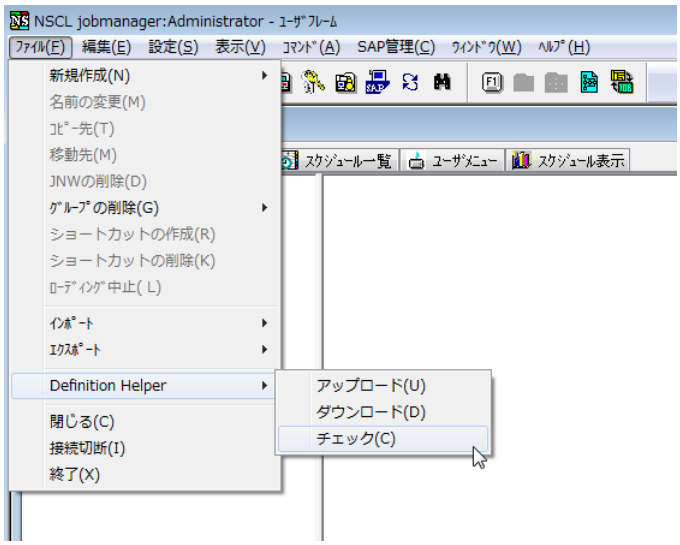


図4.20 CL/Winのチェック機能

チェックを行う場合はファイルの選択画面でチェック対象となるJPFファイルを選択します。

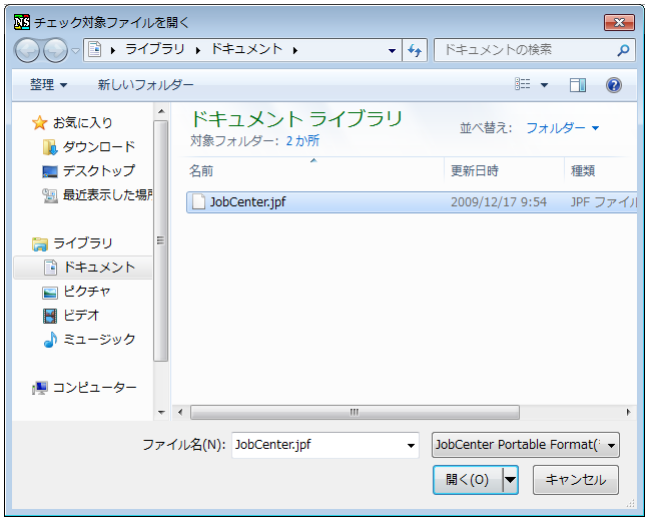


図4.21 チェックファイル選択ダイアログ

チェックが完了すると次のような成功画面が表示されます。

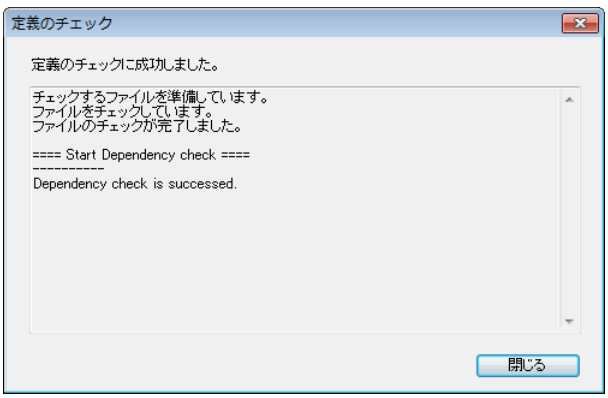


図4.22 定義のチェック成功ダイアログ

第5章 注意事項・制限事項

本章ではJobCenter Definition Helperの注意・制限事項について説明します。

5.1. 注意事項

■Excelで置換を行う際にはシートの保護を解除する必要があります。「保護モードの強制解除」ボタンを押すことによって解除することができます。

保護モードの解除が必要な作業が終了した後は、速やかに保護モードに復帰してください。通常保護がかかっている領域を編集すると不具合が発生する可能性があります。

■Excel上で「元に戻す(Ctrl+Z)」の操作を行うことはできません。

■Excelファイルとbinディレクトリは同じ場所におく必要があります。binディレクトリが無い場合は、input/outputシートが正常に動作しません。

■Excel上で行のコピーを行う場合は保護のかかっていない部分のみを選択してコピーするようにしてください。

■jnw,sched,calの各シートの「全体のチェック」を行っている間に残像が残る場合がありますが動作には影響ありません。

■セルの書式を変更することはできません。

■シートの移動、コピーはできません。

■「～」「‖」「－」の文字はDefinition Helperでは利用できません。部品名やパラメータ等に本文字を使用した場合、アップロードに失敗することがありますので使用しないでください。

5.2. 制限事項

■稼動日カレンダのタイムゾーン機能はDefinition　Helperでは設定できません。また、タイムゾーンを設定したカレンダをダウンロードしてアップロードを行うとタイムゾーンの設定は削除されます。

タイムゾーンを設定する場合はアップロード後にCL/Winを利用してタイムゾーンを設定してください。

■稼動日カレンダはJobCenter管理者でしかダウンロードをすることができません。JobCenter管理者以外のユーザでダウンロードしたJPFファイルの中には含まれないので、date-viewを使って稼動日カレンダに関連付いたスケジュールの設定を確認する場合、JobCenter管理者でカレンダを別途ダウンロードし、calシートにデータをコピーする必要があります。

■R12.8.xベースのDefinitionHelperは、アップロード(およびチェック)ではジョブネットワークを管理するグループをMG/SV上に新規に作成することができません。

あらかじめCL/WinによりMG/SVに接続して、ユーザフレーム内で目的のグループを作成してからアップロードを行ってください。

発行年月 January 2010
NEC Corporation2010